

# 第 66 回 河川レンジャー制度運営委員会

日 時：令和 4 年 6 月 8 日（水）14:00～15:40

場 所：オンラインによるリモート開催

## 議 事 次 第

1. 開会
2. 委員長・副委員長の選出 (資料-1・2)
3. 報告  
第 65 回委員会以降の動きについて (資料-3・4)
4. 審議  
2022 年度河川レンジャー年間活動計画（案）の承認について (資料-5)
5. その他  
(1) 2022 年度の年間スケジュール (資料-6)  
(2) その他のご意見
6. 閉会

---

### 【配付資料】

- 資料-1 2022 年度 琵琶湖河川レンジャー運営体制について
- 資料-2 委員長・副委員長の選出について
- 資料-3 第 65 回 河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨
- 資料-4 第 65 回 委員会以降の動きについて
- 資料-5 2022 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画（案）
- 資料-6 2022 年度の年間スケジュール
- 参考資料-1 第 65 回 河川レンジャー制度運営委員会 議事録
- 参考資料-2 河川レンジャーレポート vol.46
- 参考資料-3 河川レンジャー活動の理念・あるべき姿
- 参考資料-4 河川レンジャー制度運営委員会規約
- 参考資料-5 琵琶湖河川レンジャー活動要領
- 参考資料-6 琵琶湖河川レンジャートライアル基本ルール

## 第66回 河川レンジャー制度運営委員会 委員名簿

区分	分類	氏名	所属等	備考
河川レンジャー 制度運営委員会	学識経験者	なかたに けいこう 中谷 憲剛	NPO法人瀬田川リバプレ隊	
		ひらやま なおこ 平山 奈央子	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科	
	住民	きたい かおり 北井 香	おうみ 淡海の川づくりフォーラム実行委員長	
	行政関係者 (河川管理者)	つじ みつひろ 辻 光浩	滋賀県土木交通部 流域政策局 河川・港湾室 室長	
やの ともひさ 矢野 公久		国土交通省 琵琶湖河川事務所 所長		

### 琵琶湖河川レンジャー

区分	氏名	所属等	備考
琵琶湖河川レンジャー	ねぎやま こうへい 根木山 恒平		
	みずかみ ゆきお 水上 幸夫		
	ふくにし けんた 福西 健太		

### 河川レンジャー制度運営委員会 事務局

区分	氏名	所属等	備考
琵琶湖河川事務所	おぎた たかゆき 荻田 隆行	総括保全対策官	
	まつだ まさひろ 松田 政裕	保全対策官	
	ほり ゆうき 堀 祐樹	管理課 専門官	
活動支援室	まつおか とおる 松岡 徹	ウォーターステーション琵琶湖 河川レンジャーマネージャー	欠席
業務受託者	なかにし ふみなお 中西 史尚	河川財団 近畿事務所	
	てらい よしゆき 寺井 喜之	河川財団 近畿事務所	
	いのうえ ゆうき 井上 勇樹	河川財団 近畿事務所	
	おの まさお 小野 正雄	河川財団 名古屋事務所	

## 2022 年度 琵琶湖河川レンジャー運営体制について

2022 年度の琵琶湖河川レンジャーの運営体制について、確認と共有をお願いします。

### 1. 河川レンジャー制度運営委員会

河川レンジャー制度運営委員会の委員は表 1.の通りです。

※今年度の委員長と副委員長の選出は、本会で執り行います。

表 1. 河川レンジャー制度運営委員会委員 一覧

分類	氏名	所属等	備考
学識経験者	なかたに けいごう 中谷 恵剛	NPO 法人 瀬田川リバプレ隊	
	ひらやま なおこ 平山 奈央子	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科	
住民	きたい かおり 北井 香	淡海の川づくりフォーラム 実行委員長	
行政関係者 (河川管理者)	つじ みつひろ 辻 光浩	滋賀県土木交通部 流域政策室 河川・港湾室 室長	
	やの ともひさ 矢野 公久	国土交通省 琵琶湖河川事務所 所長	

(敬称略)

### 2. 琵琶湖河川レンジャー

琵琶湖河川事務所管内で活動を展開する河川レンジャーは表 2.の通りです。

表 2. 琵琶湖河川レンジャー 一覧

区分	氏名	任期等	備考
河川レンジャー	ねぎやま こうへい 根木山 恒平	5 期 10 年目	
	みずかみ ゆきお 水上 幸夫	3 期 6 年目	
	ふくにし けんた 福西 健太	1 期 2 年目	

(敬称略)

### 3. 琵琶湖河川レンジャー担当者

琵琶湖河川レンジャーの担当者（琵琶湖河川事務所、活動支援室 他）は表 3.の通りです。

表 3. 琵琶湖河川レンジャー担当者 一覧

区分	氏名	所属等	備考
琵琶湖河川事務所	荻田 隆行	総括保全対策官	
	松田 政裕	保全対策官	
	堀 祐樹	管理課 専門官	
活動支援室 (業務受託者)	松岡 徹	ウォーターステーション琵琶湖 流域連携支援室	レンジャーマネージャー
業務受託者	寺井 喜之	(公財) 河川財団 近畿事務所長	
	中西 史尚	(公財) 河川財団 近畿事務所	
	井上 勇樹	(公財) 河川財団 近畿事務所	
	小野 正雄	(公財) 河川財団 名古屋事務所	

(敬称略)

## 委員長・副委員長の選出について

河川レンジャー制度運営委員会の委員長、副委員長は、「河川レンジャー制度運営委員会規約」第 7 条 2 項により、委員の互選により定めることとなっています。

本会において、委員長、副委員長の選出を行いたく存じます。

表 1.および表 2.をご確認いただき、自薦、他薦を含めて、選出をお願いいたします。

表 1. 2022 年度 河川レンジャー制度運営委員会委員 一覧

分類	氏名	所属等	備考
学識経験者	なかたに けいこう 中谷 恵剛	NPO 法人 瀬田川リバブレ隊	*2021 年度委員長
	ひらやま なおこ 平山 奈央子	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科	
住民	きたい かおり 北井 香	淡海の川づくりフォーラム 実行委員長	*2021 年度副委員長
行政関係者 (河川管理者)	つじ みつひろ 辻 光浩	滋賀県土木交通部 流域政策室 河川・港湾室 室長	
	やの ともひさ 矢野 公久	国土交通省 琵琶湖河川事務所 所長	

(敬称略)

表 2. 河川レンジャー制度運営委員会規約 第 7 条 (抜粋)

(委員長及び副委員長)

第 7 条 委員会には委員長 1 名、副委員長 1 名を置くこととする。

2. 委員長及び副委員長は委員の互選によってこれを定める。
3. 委員長は会務を総括し、委員会を代表する。
4. 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故がある時又は委員長が欠けた時は、副委員長がその職務を代行する。

## 第 65 回 河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨

開催日：令和 4 年 3 月 14 日（月）14:00～16:00

実施場所：オンライン＋琵琶湖河川事務所 1 階第一会議室

出席者：制度運営委員会委員：中谷、北井、平山、辻、矢野

琵琶湖河川レンジャー：根木山、水上、福西

事務局：琵琶湖河川事務所；幅岸、小澤、堀

流域連携支援室；中西、井上

(敬称略)

### 1. 議事

#### ■ 報告

- (1) 2021 年度の年間実績
- (2) 第 64 回・臨時開催 河川レンジャー制度運営委員会の議事要旨
- (3) 琵琶湖河川レンジャー勉強会「野洲川における地域活性化に向けて」開催報告
- (4) 琵琶湖河川レンジャー・守山市・琵琶湖河川事務所意見交換会 開催報告
- (5) 河川レンジャーの募集に関する取り組み
- (6) 2021 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動報告

#### ■ 審議

- (1) 2022 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画（案）【暫定版】

#### ■ その他

- (1) 2022 年度の年間スケジュール（案）
- (2) 河川レンジャーレポート Vol. 45 発行について

### 2. 結果 [凡例：○ 委員、□ 河川レンジャー、△ 事務局]

#### (1) 報告

事務局より報告 (1) ～ (5) を報告した。また、河川レンジャーより「2021 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動報告」が報告された。

#### 【根木山レンジャーの報告について】

- 地域の収益につながる取り組みとは、地域の方がどの程度求めておられるのか。  
⇒□地域の自治会長や地域活動のリーダーの方から、地域活性化においては“若者が働く場”などの雇用に関する面も期待されている。イベントの事業化を目指すうえでは、そのような視点を持ちつつ、気軽に遊べる内容に取り組んでいる。
- 守山市以外の方の参加（参加者の広がり）は見られるか。  
⇒□今年度の河川レンジャー活動では、野洲市の三上小学校の支援を実施している。今後も野洲川の上流域で活動していければと思う。三上小学校とのつながりは、中洲での河川レンジャー活動をご覧になられたことがきっかけである。その他として、滋賀県土木事務所の紹介で湖南市とも新たにつながりができた。
- 根木山レンジャーの環境学習の広がりを感じました。今後ですが、野洲川の下流・上流で活動を展開されるうえで、個人の動きだけでは大変ではないか。  
⇒□今年度の野洲川上流の活動（三上小学校）では、流域連携支援室に協力頂いた。今後も流域連携支援室、ならびに行政の方などと連携していければと考えている。
- 活動テーマ“住民との主体的なつながり”に関して、成果について教えて欲しい。

⇒□過年度から継続的に実施している中洲親水公園での「野洲川で川あそび」活動を通して、小学生の時に参加した子が、現在高校生になっても継続的に本イベントに参加してくれていて、河川レンジャーの勉強会「E ボート研修」にも参加してくれた。そのようなことから中洲学区の子どもや保護者との主体的なつながりができたと感じている。

#### 【水上レンジャーの報告について】

○野洲川河川清掃活動で実施されたアンケートの内容は、本イベントに特化したものか。もしくは、河川への興味・課題・ニーズなども含めたものか。

⇒□河川への興味・課題・ニーズなども含めた内容です。アンケート結果をみると、本イベントに関する住民の意見が多く、河川への興味・課題・ニーズに関する意見については野洲川を教育フィールドとして活用してみたいとの意見があったぐらいです。

○活動報告の自己評価の記載方法について、これはイベントの実施の結果のみを記載するのではなく、河川レンジャーとして各種取り組みで、当初想定した成果と事後の変化や、得られた課題・問題などを記載してはどうか。

○野洲川河川清掃において、企業・学校と連携した結果、相手側のリアクションに何か変化はあったか。

⇒□次年度も企業・学校との活動の継続を確認できた。レイマックについては、次年度の活動について既に打合せを実施した。企業側から主な意見として、今後は SDGs に関する取り組みも含めて継続したい旨を確認した。

#### 【福西レンジャーの報告について】

○河川レンジャー活動の企画にあたっては、周辺の地域・行政の活動（秋に琵琶湖河川事務所が呼びかけている一斉清掃、自治体やNPO団体の清掃活動、散歩している方の実態など）を先に情報収集を行うとともに、合流されてはどうか。その際に、地域・行政の現状・課題・ニーズを認識し、それらを活動計画に反映することが、河川レンジャーとしての“つなぐ”に向けたひとつの動きかと思う。

○福西レンジャーの活動における移動について、自宅（奈良県）から活動場所（瀬田川）の移動は、時間的にも体力的にも大変ではないか。また、月間報告では夜間での活動が多いですが無理な活動になってなかったか。

⇒□仕事の都合上、不定期な活動になったり、夜間に活動することになったが。そのため、安全管理として足元をライトで照らしたり、相手の様子を伺いながら工夫し、自分自身としては楽しく安全に活動できたと思う。

○活動の規模として、今年度全体で何名ぐらいの方にお会いして、活動される方がどれぐらいおられたか、どの程度知り合いになられたか。

⇒□河川レンジャーの名刺を 50 枚作成していただいたものをお会いした方に全て配れた。その中で、滋賀パトロールランニング団体と知り合い、今後の活動への協力関係の約束ができた。

⇒○広げたい時期か、深めたい時期かを自分自身で考慮して活動すると、より信頼関係が生まれると思う。例えば、現地に行く時間などを固定すると、会う人も固定されると思う。

○信頼関係を築きと書かれている点については、当初はどのような考えであったか。

⇒□二回目にお会いした際に、感謝の言葉を相手から掛けて頂いたり、名前を覚えて頂いたりすると信頼関係ができたという評価したいと思う。

⇒○信頼関係が築けた方が、1年経ってどれぐらい増えたかということ伺いたい。

## 【共通】

- 3人とも新型コロナ禍で多くの制約のある中で、様々な活動をしていただいたことに御礼を申し上げます。
- 動きにくかったことも多いと思うが、気になったことがあれば、事務局や支援室にお話いただけたらと思う。河川事務所でも可能なことは拡大が図れたらと思う。

## (2) 審議

河川レンジャーより「2022年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画（案）【暫定版】」の説明を行い審議した。

### 【根木山レンジャーの計画について】

- 河川レンジャー活動における“商業化”に向けた動きについて、従来のつながりができた人との連携・実施を計画されているが、外部の人も積極的に巻き込んで、更なる活性化を図って欲しいと思う。

### 【水上レンジャーの計画について】

- 野洲川河川清掃において、昨年度の課題“住民主体のリーダーを配置すること”について、どのように対応されるのでしょうか。
  - ⇒□事前に“幼木伐採”“炭作り”などの予行演習を実施し、リーダーとしての自覚を持ってもらえるよう働きかけるつもりである。
  - ⇒○伐採作業ができる方がリーダーもできるとは思わないと思う。水上レンジャーが目星を付けて、リーダーとして育成されるほうが良いと思う。
- 野洲川河川清掃におけるバスの手配については、守山市や琵琶湖河川事務所、もしくは流域連携支援室と事前に調整されてはと思う。

### 【福西レンジャーの計画について】

- 河川レンジャー活動を実施するうえでは、イベントの企画や実施というよりも、イベントを通して住民のマナーの実態を把握すること、住民の川に対する思いなどを把握することの方が重要であり、普段から手段と目的を念頭におくことが望ましいと思う。
- 活動実態を見えるように、積み上げをいかにするか、住民と話をした内容、その背景などを表現することが重要。報告を意識して活動を蓄積していただければよいと思う。報告では、「いつ、どういう活動を積み上げているか」が伝わるのがポイントになる。
- ライフジャケットの着用を啓発される際は、RAC（NPO法人川に学ぶ体験活動協議会）が作成した川の安全のための小冊子があれば、それも渡しながら活動することもよいと思う。

## (3) その他

### ■2022年度の年間スケジュールについて

事務局より、2022年度の河川レンジャーの年間スケジュール（案）を説明した。

- 流域連携支援室における河川レンジャーに関する各種取り組みにおいて、自治体に参加されるイベントを実施される際は、河川レンジャー活動に関係がありそうな自治体の部局の参加を積極的に呼びかけて頂ければと思う。

○河川レンジャーレポートの配布先について、河川レンジャーの関わりのある地域・学校などを加えてはどうか。

以上

## 第 65 回委員会開催以降の動きについて

令和 4 年 3 月 14 日（月）に開催された「第 65 回河川レンジャー制度運営委員会」（以下：第 65 回委員会）以降の琵琶湖河川レンジャーに関する動きについて報告します。

### 1. 新規河川レンジャー等の募集・応募状況

新規河川レンジャーの応募状況は、5 月 25 日現在、1 名の河川レンジャートライアルの応募がありました。その他 1 名の河川レンジャーの説明希望があり対応しました。

#### （1）河川レンジャートライアルの応募者の対応について

応募者 やまさき ともはる 山崎 知陽 氏（学生）

##### ① 応募者からの連絡

4 月 9 日 応募の確認

##### ② 河川レンジャートライアル基本ルールに基づいた対応【支援室】

4 月 26 日 河川レンジャートライアル応募者との面談

5 月 11 日 応募様式に所見を記入し河川事務所に連絡

5 月 12 日 河川レンジャートライアル基本ルールに基づき  
河川レンジャートライアルとして登録

5 月 12 日 河川レンジャー制度運営委員会委員に共有

##### ③ 河川レンジャー活動への参加

5 月 21 日 水上レンジャーの活動に参加し、参加記録を作成・提出済み



写真 トライアル活動の様子 2022. 5. 21

(2) 河川レンジャーの応募者の対応について

① 河川レンジャー制度の説明希望に対する連絡【支援室】

4月7日

② 応募者への河川レンジャー制度の説明【支援室】

4月29日

なお、河川レンジャートライアル、河川レンジャーの募集については、継続して行っていますが、河川レンジャーの募集については今回の本委員会に間に合う期限を案内しました。

河川レンジャー 住民連携

館内施設のご利用方法変更のお知らせ  
2022年4月29日よりウォーターステーション替替の利用方法を  
変更します。  
・「会議室などの利用予約」については、当日でも受け付けます。  
・「2階交流スペース」、「1階多目的サロン」、「トイレ」は予約なしでもご利用頂けます。  
・ただし、新型コロナウイルス感染防止対策は継続していますので、基本的なルールはお守り下さい。  
【マスク着用】、「入館時の手指消毒」、「三密の回避」等  
休館日は毎週火曜日(祝日の場合は翌日)です。【年末年始除く】  
詳しくは「利用のしおり」をご確認ください。

Twitter  
@WS\_Biwaさんのツイート  
ウォーターステーション @WS\_Biwa  
2022年05月25日(水)  
0時の段階で水位 -1.1cm  
現在の分岐部流量 80m³/s  
時々の琵琶湖地域の平均日雨量 3.5mm

●おはようございます●今日は曇り空と曇りになる見込みです。午前中に入館の人数が多くなります。お出かけの際は混雑を覚悟すべし。最高気温は28℃となっております。日中は短装をお勧めします。

こんな方には、河川レンジャーの体験がオススメです!!  
活動を体験してみたい! 河川レンジャーを知りたい! 地域での活動のきっかけにしたい!  
琵琶湖河川レンジャートライアル受付中!

いっしょに川創りを考えませんか  
人と人、川と人とをつなぐ人をさがしています!  
琵琶湖河川レンジャー募集中!

第66回委員会(令和4年6月8日開催)において審査を希望される方は  
令和4年5月25日(水)17時までに事務局まで送付ください。

## 2. 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会の開催

日 時：令和4年5月26日（水）15:00～16:40

場 所：琵琶湖河川事務所1階 第1会議室

出席者：琵琶湖河川レンジャー：根木山、水上、福西

琵琶湖河川事務所：荻田総括保全対策官、木村建設専門官、田中係長（調査課）、  
中村課長（管理課）、森松課長（占用調整課）、松尾出張所長（瀬田川出張所）、  
川端出張所長（野洲川出張所）、田中係長（野洲川出張所）、  
松田保全対策官、堀専門官（管理課）

### （1）議事

#### 1. 情報提供・共有

- 1) 令和4年度の琵琶湖河川事務所事業概要
- 2) 令和4年度の河川レンジャー年間活動計画（案）

#### 2. 意見交換

「住民と行政をつなぐ」

～事業における住民連携の課題、河川レンジャーの関わりについて

### （2）結果

#### 1. 情報提供・共有

- 令和4年度の野洲川・瀬田川における琵琶湖河川事務所の事業計画を共有した。
- 令和4年度の琵琶湖河川レンジャー活動計画（案）を共有した。

#### 2. 意見交換

- 琵琶湖河川事務所の事業における今後の住民連携の可能性、及び河川レンジャー活動との関わり方について意見交換を実施した。



写真 意見交換会の様子 2022.5.26

## 3. 新規河川レンジャー向けの活動マニュアルの検討・作成

- ・ 支援室において、新人河川レンジャーが「あるべき姿・理念」に合致した活動を確実にこなせるよう、マニュアルを検討・作成しています。（暫定版を6月中に作成予定）

## 4. 河川レンジャー活動

「2022年度琵琶湖河川レンジャー年間活動計画（案）暫定版」を基に実施中。

以上

## 2022 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画 (案)

- 根木山河川レンジャー P. 1
- 水上河川レンジャー P. 4
- 福西河川レンジャー P. 8



(テーマ) 野洲川の川守りをつなぐ

氏名： 根木山 恒平

作成日： 2022年5月18日

<p>背景と昨年度の問題</p>	<p>野洲川下流部（主に守山市中洲地区を中心に）においては、野洲川放水路の整備から40年以上が経過し、2013年度以降、地域の活性化にも資する「かわまちづくり」が琵琶湖河川事務所、守山市、地域住民により進められています。2015年度からは、住民グループ「なかす野洲川たんけん隊」による河川活動が継続されています。</p> <p>他方、野洲川中洲親水公園あめんぼうの利用が少ないことが課題として共有され、一昨年度には、琵琶湖河川事務所、守山市との意見交換を踏まえ、一部、ルールが改定されました。また守山市環境学習都市宣言（2017年）をもとに、昨年度から守山市内で各種の環境学習が推進されはじめ、中洲こども園や、中洲小学校でも、野洲川での学習活動が実施され、住民グループによる川遊びには90名以上の参加がありました。河川レンジャーが支援することで琵琶湖河川事務所が所有するEボートを利用した住民活動も複数回行われました。</p> <p>その他、地域住民から出されているキャンプ利用などの要望も踏まえ、守山市役所と琵琶湖河川事務所、琵琶湖河川レンジャーを交えた意見公開会が実施され、率直な情報交換が行われました。</p> <p>他方、数年前まで、河道内に繁茂していた樹木は一斉に伐採され、現在は、再繁茂対策としての幼木伐採をいかに行えるかに焦点が移っています。</p> <p>住民にとって野洲川が生活の質を高める場所として利活用が進められるとともに、野洲川の維持管理に協力する住民が増えることが目指されます。</p>
<p>実施目的</p>	<p>(ビジョン)</p> <p>野洲川下流部において、住民が生活の質を高めるために、野洲川を利用することが増え、同時に、野洲川の維持管理や環境保全に参加、協力している住民が増えている姿を目指します。</p> <p>30～40代の子育て世代が最も多いという守山市の人口構成も踏まえ、子どもたちの健やかな育ちの場、家族の休日の憩いの場として、野洲川の自然が注目され、利用する子連れ家族が増えている姿を目指します。</p> <p>(ミッション)</p> <p>野洲川下流部、特に、守山市域では、河川管理者である琵琶湖河川事務所と、河川公園等を占有している守山市、また、そこを利用する住民および住民団体などが連携して、野洲川の利用と保全をはかる必要があることから、住民と行政のつなぎ役である河川レンジャーとして、住民による野洲川の利用に伴走するとともに、野洲川の維持管理や環境保全に参加・協力する住民が増えるように働きかけ、サポートします。また、地域住民団体とも連絡をはかり、住民の声の聴取にも努めます。</p>

<p><b>今年度の 成果目標</b></p>	<p>(1) 野洲川における住民活動の機会の創出支援          昨年度までの実績も踏まえ、住民グループや中洲こども園、中洲小学校、守山北高校をはじめとした教育機関と連携した野洲川での環境学習の機会を増やすとともに、野洲川における住民活動が創出されることを支援します。</p> <p>(2) 清掃活動や幼木伐採などへの住民の参加の促進支援          野洲川におけるゴミ拾いや、樹木の再繁茂対策としての幼木伐採などに参加する住民が増えるように活動します。</p> <p>(3) 住民の声の聴取          守山市中洲地区をはじめ、野洲川沿川の住民の声の聴取を行います。</p> <p>(4) かわまちづくりに向けた関係機関との連絡調整          昨年度までの情報・意見交換を踏まえ、住民の声の聴取とも連動しながら、今後の利用促進に向けた協議に役割を果たしたいと考えます。</p> <p>(5) その他          守山市中洲地区に限定せず、野洲川沿川地域のさまざまな主体と連携した活動や、また、野洲川や瀬田川で新たに河川レンジャーとして活動しようという人を支援する活動を、河川レンジャーとしてこれまで培ってきたノウハウを活かして行います。</p>
-----------------------------	---

<p><b>内容</b></p>	<p>(1) 野洲川における住民活動の機会の創出支援          住民グループによる定期的な環境学習活動支援          中洲こども園、中洲小学校、守山北高校など教育機関による野洲川学習の支援          その他、野洲川における住民活動の機会の創出支援</p> <p>(2) 清掃活動や幼木伐採などへの住民の参加の促進支援          野洲川河川清掃活動への住民参加支援          幼木伐採活動の住民支援          地域住民団体による住民活動支援</p> <p>(3) 住民の声の聴取          守山市中洲地区の住民団体を中心に情報交換、意見聴取を行います</p> <p>(4) かわまちづくりに向けた関係機関との連絡調整          上記(1)～(3)の活動で得た情報を踏まえ、守山市役所および琵琶湖河川事務所との情報、意見交換を行い、かわまちづくりの推進に向けて努力します</p> <p>(5) その他          さまざまな主体から河川レンジャーとしての役割やノウハウに対してある協力要請に応じて可能な範囲で活動します          新たに河川レンジャーとして活動しようという人を必要に応じて支援します</p>
<p><b>対象</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野洲川を利用しようという住民</li> <li>・守山市中洲地区や野洲川沿川の住民および住民団体</li> <li>・教育機関</li> <li>・守山市役所および琵琶湖河川事務所</li> </ul>

・新たに河川レンジャーとして活動しようという人														
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	(1) 住民活動の機会の創出支援	○ 計画支援	○ 実施支援	○ 実施支援	○ 実施支援	○ 実施支援	○ 実施支援							
	(2) 維持管理活動支援			○ 清掃活動					○ 清掃活動		○ 幼木伐採	○ 幼木伐採	○ 幼木伐採	
	(3) 住民の声の聴取	○ 情報収集	○ 情報収集		○ 情報交換		○ 情報交換		○ 情報交換		○ 情報交換		○ 情報交換	
	(4) 関係機関連絡調整	○ 情報収集		○ 情報交換			○ 意見交換				○ 意見交換			
	(5) その他									○ 新たな人探索				

氏名：水上 幸夫

作成日：2022年 6月8日

背景と昨年度 の課題	<p>背景</p> <p>私は、川は住民の宝であり、できるだけ多くの人々に「川に関心を持ってもらい」「川に直接ふれてもらい」「川のことを自ら考えてもらう」等の行動をしてもらえるような「住民参加の川づくり」の取り組みを進めるべきだと思っている。そのためには、住民と行政（河川管理者）がともに考える川づくりを進めることが重要であると考えている。</p> <p>昨年度の課題</p> <p>2017～2021年度の4年間で行政（河川管理者）と住民がともに考える川づくりをテーマに進めてきたが「川のことを自ら考えてもらう」住民主体の川づくりの活動へと発展させる事を進めている途上である。</p>
実施目的	<p>野洲川の河川環境を大切に、住民の主体のもと、住民・企業・行政と連携して、川を知り、川を活かした活力ある地域づくりの実現を図るため、川を軸にした地域活動としての「川づくり」の活動を行う。</p> <p>(ビジョン)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 野洲川が多くの人の活動場所となる。</li><li>② 住民が川づくりに参加できるような仕組みができる。</li><li>③ 住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる。</li><li>④ 最終的には住民主体となった住民参加の川づくりが実現する。</li></ol> <p>(ミッション)</p> <p>サブテーマとして2つのテーマで活動</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 地域住民参加の川づくり</li><li>② 企業参加の川づくり</li></ol> <p>◆ミッション達成のための具体的な川づくりのテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 緑化・美化活動を軸とした環境改善（環境保全）</li><li>② いろんな世代の人達が川にふれ親しむきっかけをつくる。（川の利用）</li><li>③ 植生・水生生物の観察による学習・教育（川を知る）</li><li>④ 水遊びで水にふれあい、川の恐ろしさを伝える（安全）</li><li>⑤ 水害などから地域を守る（防災）</li><li>⑥ 地域連携 地域・企業・行政と連携した川づくり（地域連携）</li></ol>

<p>今年度の 成果目標</p>	<p>1) 地域住民、企業が川づくりに主体的に参加できるような仕組みづくり（地域連携）</p> <p>(1) 野洲川河川清掃（環境保全）</p> <p>2017年から実施してきた野洲川河川清掃活動を継続して進める</p> <p>2021年度から「住民主体の川づくり」を目指して企画の段階から企業・住民の想いを聴き、住民が主体的に活動する仕組みづくりに向けた野洲川河川清掃を実施してきたが今年度は、昨年度聴いた参加者の皆さんの意見を参考に更なる「住民主体の川づくり」に向けた活動を進める。</p> <p>(2) 樹木再繁茂対策（野洲川の水害から地域を守る）（防災）</p> <p>樹木再繁茂対策のひとつである幼木伐採を住民の皆さんと行う</p> <p>(3) 住民の声（想い）を聴き、届ける（地域連携）</p> <p>野洲川に関する住民の声（想い）聴き、行政に届けるとともに記録として残し住民主体の川づくりに向けた取り組みに生かせるようにする。</p>
----------------------	---

<p>内容</p>	<p>(1) 地域住民、企業が川づくりに主体的に参加できるような仕組みづくり</p> <p>（主な意見）</p> <p>◆野洲川河川清掃の参加者の主な感想</p> <p>①清掃、芝桜、幼木伐採のチーム分けはよかったが、そのあとの各チームにリーダー的な存在がおらず、作業内容やチーム内の作業分担や活動エリアが全体で共有されないまま分裂して作業してしまったため参加者が困っていたようでした。</p> <p>②参加者の大半が企業の人達でありイベントを大きくして参加者を増やし参加する住民のエリアを広げていく事も必要だと感じた。</p> <p>③今回、地元自治会の役員さんの参加がわずかでした。こういった取り組みを地域も巻き込む際は、自治会等の行事を確認する必要があると思います。特に6～7月、10～12月にかけて、地域では清掃活動を断続的に行っている傾向があります。</p> <p>④時期については、11月は琵琶湖・野洲川に関する環境や清掃活動が集中していたため、最初の連絡の中で、自治会も含めて最適な時期を選定することが肝要と存じます。</p> <p>⑤第2部の活動として引き続き炭づくりなど伐木の利用する場面にしたいと思います。そのためにも、時間管理をしっかりとする必要があります。</p> <p>⑥野洲川は教育フィールドとしてはかなり重要な環境だと思っています。</p> <p>その分、生徒たちを気楽にかつ高頻度に参加させるための交通手段の確保が課題だと考えています。</p> <p>⑦コロナが落ち着いていけば、野洲川清掃のあと、みんなでバーベキューできるといい</p> <p>※※令和3年度野洲川河川清掃で参加者の主な意見を受けて2022年度の活動計画を作成した</p> <p>1. 企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動実施計画（概要）</p> <p>1) 実施時期</p> <p>令和4年春（6月下旬）・秋（9月中旬）</p>
-----------	---

2)参加者・・・約 100 名予定

- ①(株)レイマック、綾羽(株)、なかつ野洲川たんけん隊、立命館守山中学校、地域住民
- ②琵琶湖河川事務所、守山市

3) 内容

第1部

- ①野洲川河川清掃・芝桜の除草
- ②河川清掃の実施範囲(予定) 天満大橋(1. OKP)～稲荷大橋(2. 4KP)

第2部

**(秋(9月に実施予定))**

- (1)幼木伐採・簡易炭づくり  
幼木伐採及び伐採した伐木材の有効活用
- (2)防災かまどによる非常炊き出し体験(交流会)

4) その他

- (1) 実施内容については「住民主体の活動」に向けて企画の段階から参加者に事前に活動に関する想いを聴き、皆さんで決める予定。
- (2)地元住民の参加者を増やす
  - ①野洲川河川清掃を実施するにあたっては地元との綿密な調整を行う。
  - ②野洲川河川清掃開催にあたっては地元へ広く広報を行い地元住民の参加者を増やすようにする。
- (3)野洲川河川清掃実施後についても、参加者に野洲川での活動に関する皆さんの想いを聴き、その想いを行政に届けるとともに記録として残し住民主体の川づくりに向けた取り組みに生かせるようにする。
- (4)新型コロナウイルス感染拡大防止対策については実施計画作成の段階での感染拡大状況を踏まえて、手指消毒の実施、検温、代替プログラムの検討等を行う

**2. 幼木伐採と簡易炭づくり**

実施概要

1) 実施時期

令和4年春(5月21日(土))

2) 参加者・・・20名予定

- ①立命館守山中学校
- ②琵琶湖河川事務所

3) 内容

第1部

- ①幼木伐採
- ②幼木伐採の実施範囲(予定) 天満大橋(1. OKP)～稲荷大橋(2. 4KP)
- ③簡易炭づくり

樹木再繁茂対策で伐採した伐木材の有効活用

	<p>第2部</p> <p>野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査（琵琶湖河川事務所と連携）</p> <p>魚類調査</p> <p>その他</p> <p>参加者の交通手段の確保の調整</p>												
対象	企業、地域住民、立命館守山中学校、行政（琵琶湖河川事務所、守山市）												
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	企業・地域住民が川づくり に主体的参加できる よう仕組みづくり	関係者と打ち合わせ・調整	幼木伐採と簡易炭づくり実施・関係者と調整	野洲川河川清掃（春季）活動実施	関係者と打ち合わせ・調整	関係者と打ち合わせ・調整	関係者と打ち合わせ・調整	関係者と打ち合わせ・調整	野洲川河川清掃（秋季）活動実施	取りまとめ	考察	次年度活動計画（案）作成	次年度活動計画の打ち合わせ・調整

背景と昨年度の課題	<p>私は、豊かな自然と観光資源があり、地域の住民や観光客の憩いの場となっている瀬田川を河川レンジャーとして維持していく必要があると考えています。</p> <p>瀬田川を利用している人々にとって、一部の釣り人の行為が迷惑になっている事があります。琵琶湖漕艇場内での釣りは禁止されていますが、ルアーや釣り針、釣り糸などが絡んでいます。路上駐車もあり、生活している住民にとっては通行の妨げになっています。</p> <p>2021年度の活動を通して、利用者の実態について十分に把握出来ていないことから、年間を通しての景観や利用、マナーの実態を把握すると共に、瀬田川への想いや課題を継続して調査することが必要と感じています。</p>
実施目標	<p>瀬田川で、散歩や運動、釣りなどで利用する人々が安全・安楽で共に活動できる場所になる働きかけをしていきます。</p> <p>また、共に活動できる場の実現を目指していく中で、良好な河川景観を維持できるよう、利用者や住民が考えている課題やニーズについて引き出すとともに、共に考えていける場づくりを行います。</p> <p>(ビジョン)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 瀬田川を利用する人々の想いを行政につなぎ、課題の解決方法を探る。</li><li>② 瀬田川が地域住民と観光客の安全・安楽に過ごせる場所になるようゴミやマナーの面からの課題を把握し、住民や利用者と景観保全を図る仕組みを検討する。</li></ol> <p>(ミッション)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 瀬田川を利用する人々と信頼関係を築き、川に対する想いや課題を引き出す。</li><li>② 瀬田川の美化・清掃活動を、SNSを利用して参加を呼びかけ積極的に行い、活動時に気付いた景観やマナーの具体的な課題を把握する。また、参加者から瀬田川への想いやニーズを引き出すとともに共に考える機会を作る。</li><li>③ ①、②を通して、把握した想いや課題を行政等につなぐ。</li></ol>
今年度の成果目標	<p>(1) 瀬田川利用者の実態とニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・瀬田川を利用している人々に積極的に会話し、存在を知ってもらい、信頼関係を構築するとともに、利用者に質問調査を行い、瀬田川への想いや課題を把握する。</li><li>・安全利用の観点から釣り人のライフジャケット着用を啓発していく。</li><li>・水辺の安全利用のための講習会を年間2回実施する。</li></ul> <p>(2) 景観保全やマナー面から見た課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動予定を SNS 上に載せて呼びかけを行い、瀬田川を利用する人々と一緒に清</li></ul>

	<p>掃活動を行うことを試行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漂流ゴミや生活ゴミ、レジャー(釣りやデイキャンプ)で出たゴミを収集し、瀬田川の課題を把握する。瀬田川を利用する人々が気持ちよく過ごせる景観を保持する方法を参加者と一緒に考える。</li> <li>・活動参加者に、瀬田川への想いや課題について質問調査を行い、その結果を把握する。</li> <li>・活動内容は SNS 上にて結果を報告し、活動を周知することも併せて行う。</li> </ul> <p>(3) 瀬田川の利用者の把握と、行政等との共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)、(2) で把握した利用者を把握し、利用者の想いや課題を行政等に共有する。</li> <li>・次年度の活動促進に活かせるようにする。</li> </ul>
--	---

内容	<p>1. 瀬田川利用者の実態とニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬田川を利用する人々に対して積極的に話しかけ、信頼関係を構築すると共に、瀬田川に対する想いを聴取する。</li> <li>・聴取する内容は、主に「瀬田川の良い所、改善したい所」を考えている。 質問して得た返答は、活動後ノートに記入しておく。 活動後ノートを整理し関係者と共有を図る。 対象：瀬田川を利用するコミュニケーションの時間がとれる方(年齢不問)</li> <li>・利用者の利用目的を把握するとともに、流域連携支援室と連携して瀬田川利用団体について把握し今後の活動の情報として整理する。</li> <li>・活動中に釣り人のライフジャケット着用率を観察し、毎月着用率を算定していく。</li> <li>・その他、水辺付近で遊んでいる人々に落水等の危険がある場合は注意喚起を行う。</li> <li>・6月と12月(2回/年)に、応急手当普及員の上平孝洋氏による「応急手当と水難事故発見時の対応(仮)」講習会をウォーターステーション琵琶館内で行う。 対象は地域住民とする。</li> </ul> <p>2. 景観保全やマナー面から見た課題の把握</p> <p>(1) 活動の呼びかけと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動を自ら積極的に行い、瀬田川のゴミやマナーの実態を把握する。また、活動においては、「琵琶湖河川レンジャー福西」でアカウント作成した SNS (ツイッター) 上に予告し呼びかけを行い、一緒に清掃活動を行ってもらえる方と実施する。</li> <li>・清掃活動当日に、SNS で報告を行いリアルタイムな情報を発信する。</li> <li>・特にゴミについては、漂流ゴミや生活ゴミ、レジャー(釣りやデイキャンプ)で出たゴミ等、ゴミの種類と場所の特徴を把握する。</li> <li>・マナー面については、釣り人による路上駐車が現状どの程度あるのかも観察す</li> </ul>
----	--

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間は令和4年4月～令和5年3月を想定</li> </ul> <p>(2) 地域住民や活動団体による清掃活動行事の企画・実行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月頃までに把握したゴミの情報をもとに地域住民や活動団体に対して場所を設定した清掃活動行事を企画し、呼びかけ、実施する。</li> <li>・初回開催は、10人程度を想定する。</li> <li>・参加者に意見や課題を問いかけると共に、次回開催に向けた課題について意見を聴取する。</li> <li>・実施は令和4年10月中旬頃を想定</li> </ul> <p>3. 行政等への共有</p> <p>1, 2で行った結果から得られた水辺の利用者や清掃活動への参加者から聞いた意見や課題について、月間の活動報告や委員会を通じて行政や委員会に共有する。</p> <p>活動の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動の実施の際には、河川レンジャーののぼりを掲示すると共に、所定のゴミ袋を使用する。</li> <li>・感染対策として、マスクを着用しソーシャルディスタンスを保ち活動する。</li> <li>・携帯用アルコール液を持ち歩き、適宜消毒する。</li> <li>・釣り人は釣りに集中しており、釣り人の状況をしっかりと判断して声掛けを行う。</li> <li>・自身はライフジャケットを必ず装着し、安全に注意し実施する。</li> <li>・SNSでの情報発信では、「プライバシーの保護」、「不確かな情報は流さない」、「当日行った活動内容を正確に発信する」、「個人情報やプライベートな情報の書き込みはしない」を守り実行する。</li> <li>・活動の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症の流行動向を把握しながら、支援室と密に連絡をとり調整を図る。</li> </ul>
対象	対象：地域住民、釣り利用者、その他利用者で時間の取れる方

工程計画		4	5	6	7	5	8	9	10	11	12	1	2	3		
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月		
1. 瀬田川利 用者の実態と 想いの把握		—	—	— ●講習会	—	—	—	—	—	—	— ●講習会	—	—	—		
2. 景観保全 やマナー面か ら見た課題の 把握		—	—	—	—	—	—	—	— ●清掃活動行事	—	—	—	—	—		
3. 行政等へ の共有				—					—				—			

## 2022 年度の年間スケジュール

2022 年度の琵琶湖河川レンジャーの年間スケジュールは以下の通りです。

時期	制度運営委員会等	河川レンジャーミーティングおよび勉強会	その他支援室の主な動き (Rレポート発行、各種イベント開催)
4月		河川レンジャーミーティング(4/25,26)	
5月	琵琶湖河川R・琵琶湖河川事務所 意見交換会(5/26)		
6月	・第66回 制度運営委員会(6/8)		
7月		河川レンジャー勉強会	琵琶湖河川レンジャーレポート 発行
8月		河川レンジャーミーティング	
9月			
10月	琵琶湖河川R・琵琶湖河川事務所 意見交換会		
11月	・第67回 制度運営委員会 ・河川レンジャー・委員との意見交換会	河川レンジャー勉強会	琵琶湖河川レンジャーレポート 発行
12月		河川レンジャーミーティング	
1月			
2月	第68回 制度運営委員会 ・河川レンジャー・委員との意見交換会		
3月			琵琶湖河川レンジャーレポート 発行

令和4年度

■第65回 河川レンジャー制度運営委員会 (2022. 3. 14) 議事録

◆出席：中谷委員、北井委員、平山委員、辻委員、矢野委員

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末のお忙しいところ、ありがとうございます。定刻になりましたので、第65回河川レンジャー制度運営委員会を開催いたします。</li> <li>・私は、本日司会進行を務めさせていただきます、委員会事務局の中西と申します。よろしくお願いいたします。</li> <li>・本日の委員会でございますが、委員の皆様5人全員出席いただいております。委員会規約第8条第2項により、委員会の成立を報告いたします。</li> <li>・次に、お送りしました資料のご確認をお願いいたします。まず、委員会配布資料につきましては、議事次第、委員名簿がございます。本資料は、資料-1から資料-8までの8種類ございます。参考資料は6種類用意しております。説明に応じまして画面を共有しながら進めたいと思います。それから、根木山レンジャー、福西レンジャーの報告資料と事務局からの報告資料を別紙で用意してございます。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 委員紹介	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続きまして、出席委員のご紹介でございますけれども、お手元の委員名簿を確認ください。紹介は、この委員名簿をもって代えさせていただきます。それから、3名の河川レンジャーの皆様にご出席いただいております。</li> <li>・本日の議事ですけれども、議事次第にございます「報告」から「その他」まで執り行ってまいります。閉会は4時の予定でございます。閉会后、傍聴の方には退室いただきまして、委員の皆様はそのままお残りいただきまして意見交換会を予定しております。長時間にわたりますけれども、よろしくお願いいたします。</li> <li>・なお、発言でございますけれども、本日、別紙にて発言いただくまでの注意事項を書いたものをお送りしております。基本、マイクをミュートにさせていただきまして、中谷委員長より指名いただいた方はマイクを解除して発言いただき、その後またミュートにさせていただくというように進めていきたいと思っております。</li> <li>・それでは、これより中谷委員長に進行をお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。</li> </ul>

(太字：

決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (1)2021年度 の年間実績	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、進めさせていただきます。</li> <li>• まずは、委員の皆さん、ご出席ありがとうございます。そして、レンジャーさん、日々の活動を含め、ご苦労さまです。事務局もありがとうございます。お疲れさまです。</li> <li>• では、65回の運営委員会を早速始めさせていただきますので、よろしくお願ひします。</li> <li>• まず、報告事項といたしまして、2021年度の年間実績ということで事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、画面を共有しながら進めていきます。</li> <li>• お手元の資料ー1「2021年度の年間実績」というものでございます。こちらは今年度の年間スケジュールを示してありまして、前回の第64回の会議で11月までの活動実態をご報告させていただきました。今回の会議では、11月以降の行事を主にご報告させていただきます。</li> <li>• 11月は、制度運営委員会が1日にありましたのと、支援室では「瀬田川を歩こう！」の行事を開催しました。それから、12月は臨時の制度運営委員会を開催いたしました。1月は飛ばしまして、2月におきましては、琵琶湖河川レンジャーと琵琶湖河川事務所、守山市の意見交換会を15日に開催したのと、2月4日に河川レンジャーの勉強会を開催しました。3月におきましては、このたびの65回の委員会と、支援室としましては3月12日に「野洲川を歩こう！」のイベントを開催いたしました。</li> <li>• 以上となっておりますが、また後の資料のほうでご紹介したいと思います。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• はい、説明ありがとうございました。</li> <li>• 今、11月から後半の分を説明いただきました。その中にありますポイントの部分はまた後のほうで説明をいただけることになっていますので、これはこれとして次へ進めさせていただきます。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (2)第64回・臨時開催 河川レンジャー制度運営委員会の議事要旨	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• では、事務局、次の64回の議事要旨についての説明をお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、資料ー2でございます。第64回と臨時開催の河川レンジャー制度運営委員会の議事要旨となっております。</li> <li>• こちらにつきましては、委員の皆様、レンジャーの皆様には既にご確認いただきまして確定しておりますので、主に決まったところだけかいつまんで説明させていただきます。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第64回の運営委員会では、レンジャーの中間報告をいただき、それに対して委員の皆様からアドバイスをいただきました。また、新規レンジャーの審査もございまして、無事任命されたというところでございます。</li> <li>・臨時開催の制度運営委員会では、新規レンジャーの福西レンジャーの年間活動計画について審議いただきまして、活動計画を承認いただきました。</li> <li>・主な要点につきましては以上となっております。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・今の要旨については、委員の皆様方、レンジャーさん、それぞれに前の機会に確認をしていただいております。その中で気になるところ等ありましたら、後で年間活動報告の時間がありますので、そちらで議論をお願いしたいと思います。このパートについては、今説明のあったとおりとさせていただきます。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (3) 琵琶湖河川レンジャー勉強会「野洲川における地域活性化に向けて」開催報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは次に、レンジャーさんの勉強会、野洲川をフィールドにした勉強会をしていただいたので、それについての説明をお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、続きまして、資料-3になります。</li> <li>・若干説明の日付が前後するかもしれませんが、先月2月4日に河川レンジャーの勉強会を開催いたしました。今年度は、1回目が7月にEボートの研修ということで、こちらも野洲川。また、2月には野洲川の地域活性化ということで開催させていただきました。</li> <li>・この勉強会は河川レンジャーのスキルアップや活動の後押しになればということで、中洲親水公園の利用促進を目的として、水辺の特性を生かしたまちづくりの全国事例やノウハウというところを勉強いただきました。</li> <li>・河川レンジャーさん、守山市役所さん、それからレンジャーさんとともに活動をされている一般の方に参加いただきました。</li> <li>・福井県でご活躍されております田中謙次さんをお招きして、「水辺とまちづくり」ということで講義いただきました。水辺の取り組みの実践事例の紹介と、そういった活動をしていく上でのポイントを説明いただきました。また、グループワークも実施しまして、中洲親水公園をテーマに、利用促進の考え方の主なポイントとしては、ギリギリセーフの計画ではなく、ギリギリアウトの計画から始めていくと、楽しい計画に落ち着くというようにお話をいただきました。その中で、なぜそれが必要か、実現するにはどのようにしたらいいかという点について皆さんで考え、意見出しをしていただきました。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・レンジャーの皆様からも参考になったという感想をいただいております。事務局としましては、今後こういったノウハウをレンジャー活動に生かしてもらうことが期待できるのかなと思っております。</li> <li>・簡単ですが、以上、ご報告でした。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、説明ありがとうございました。</li> <li>・レンジャーさんにとっていい機会をつくっていただいていると思います。田中謙次さんがストレートにやっているフィールドと野洲川の状況は少し異なるかもしれませんが、利用するといいますか、参考にするところは大いに参考にさせていただければと思います。</li> <li>・あと、レンジャーさんのほうから、例えば今「ギリギリセーフ、ギリギリアウトの利用」というのがありましたけど、その辺をレンジャーさんはどう感じられたかということも後の報告の中で触れられるようでしたら触れていただければいいかなと思います。</li> <li>・それでは、今のレンジャーさんの勉強会についてはここまでとさせていただきます。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (4) 琵琶湖河川レンジャー・守山市・琵琶湖河川事務所意見交換会開催報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、次に、事務所さんとの意見交換会も開催していただいておりますので、それについての説明をお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続きまして、資料-4となります。</li> <li>・勉強会を受けた1週間後に似たようなテーマでの意見交換をさせていただきました。昨年度から守山市さんにも入っていただいて中洲親水公園をテーマに議論しておりますので、その続きの議論ができたということで、河川レンジャー、琵琶湖河川事務所の三者による意見交換会を開催いたしました。</li> <li>・守山市さんの公園の部署の方にも参加いただきまして、昨年よりも実質的な具体の議論が交わればという設定で開きました。また、河川事務所のメンバーも替わられているということもありまして、そもそもどうい目的でこの公園を整備することになったのかということから振り返りながら、また去年の議論や今年の利用実績も紹介しながら意見交換をいたしました。</li> <li>・テーマはやはり中洲親水公園の利用促進についてということで、実際地元の方から、釣りができるイベントがしたいとか、キャンプができるといいとか、バーベキューをしたいとか、トイレがあまりよくないとか、いろんな意見をいただいております、こういったそれぞれの意見に対してどこまでできるのかとか、できるためにはどうしたらいいかについて意見を交わりたいということで、ここでは水上レンジャーに進行役と</li> </ul>

		<p>なってもらいまして行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのテーマに対してできること・できないことを守山市さんからもお話しいただいたり、実際トイレなんかは新しくリニューアルする計画があるということをお話していただいたり、解決できそうな問題も幾つかあって、レンジャー活動としてどういったところをチョイスしていけばいいのかという目安にもなったかなと思っております。</li> <li>・また、ここは環境学習というところで非常にいい使い方ができるので、あまりルールとかにはとらわれずに考えていけばいいんじゃないかというような意見もいただいたりしておりました。</li> <li>・簡単でございますが、以上でございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明、ありがとうございます。</li> <li>・今の資料にもありましたとおり、行政、特に守山市さんの参加もいただいておりますし、この辺は非常に大事なと。川とのつながりとか、いろいろやっていくわけですけども、事務所さんで取り組んでもらっている事業と、それがうまく地元広がる——ただ、地元としては「遊べる場所があったらいいやん」というところですが、行政の事業としては「住民の方にできるだけ川に近づいてもらえる場所を提供していきます」というようなところで、そこでソフト的にどう使うかというのは、先ほどもありましたように、ギリギリアウト的な、本来の枠をちょっとはみ出すような使い方のほうが面白いことがあるような気がしますので、その辺もうまく機能していくといいなと思って聞いておりました。</li> <li>・あと、本日は非常に議題もありまして進行が難しいなと思っているので、またご意見等ありましたら、多分レンジャーさんの年間活動あるいは活動計画の中に関係してくると思いますので、そちらでお願いすることとさせていただきます。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (5) 河川レンジャーの募集に関する取り組み	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、次、レンジャーさんの募集に向けての取り組みというところの説明をお願いできますか。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、次は資料-5となります。募集に関する取り組みとしまして、前回の委員会でも前半どういことをしてきたかというのを触れさせていただきましたけれども、後半どのようなことをしたかということを中心にまとめております。</li> <li>・河川レンジャーの応募状況でございますが、今回の委員会に向けては特に応募はございませんでしたが、10月に1名、福西レンジャーに応募いただいたことを再掲しております。また、12月に支援室が企画しました川歩き等で参加された方からレンジャーについて興味があるというお問</li> </ul>

	<p>い合わせをいただき、レンジャーの説明をさせていただいたという経緯があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募状況については以上のような状況になっております。</li> <li>・続きまして、河川レンジャー及びレンジャートライアルの募集についてということで、今年度はチラシをリニューアルして配布をしておりますけれども、前回の64回の会議のときにトライアルのほうも進めていったらいいよというご指南をいただきましたので、トライアルの募集チラシもつくりまして、案内できるところに案内したり、ホームページでも見ていただけるよう、チラシにリンクするページをつくったりいたしました。</li> <li>・今のところ、龍谷大や立命大にトライアルのチラシを置かせてもらっているんですけども、まだ応募というところまでには行き着いていないというような状況でございます。</li> <li>・次のページに配っているチラシを掲載させていただいております。</li> <li>・これについては、また来年も引き続き実施していくものかなと考えております。</li> <li>・それから、3ページ目は河川レンジャー支援室が主催となりました行事の紹介でございます。こちらは、11月13日と先日の3月12日に瀬田川歩きと野洲川歩きというのをしました。資料に載せておりますのは瀬田川の川歩きでございます。</li> <li>・瀬田川の河川管理の要衝や歴史景観を見ていただいて、室内に帰って感想や疑問点をお話しいただくと。その中で、河川レンジャーの仕組みや活動事例を紹介させていただきました。現地を歩いて川のことを説明すると、初めて知りましたという方がやっぱり多くて、こういうことをする意義がかなりあるのかなと感じられました。また、たくさん見る場所もあるので、今後も第2弾、第3弾と続けられたらなというところでございます。</li> <li>・資料は瀬田川の川歩きだけでしたけども、野洲川のほうを先日の土曜日に実施しました。別紙の資料となりますけども、速報的に状況を報告させていただきます。</li> <li>・ここも下流の半分ぐらいの管理区間でございました。ちょうど野洲川放水路の部分歩きまして、改修の歴史やあめんぼうの公園の経緯、こういったことを見ていただきました。こちら、実際歩いたのは初めてだったとかスケールが大きかったというような感想をいただきました。</li> <li>・こういったことをしながら、河川レンジャーに興味を持っていただけたらなということでやっております。</li> <li>・資料に戻りまして、5ページのほうでは、前回の会議でもご指摘がありましたように、河川レンジャーはどこで何をやっているのかとか誰がや</li> </ul>
--	---

		<p>っているのかというようなどころもあるので、広報する意味でも、後ればせながら、のぼりをつくらせてもらって、このような活動で掲げながらやり始めております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後、ウォーターステーション琵琶でのSNSでの募集掲載でございます。</li> <li>・今回、福西レンジャーはTwitterを見て応募してきたということもありまして、TwitterやFacebookを見ていただいている方がどれぐらいいるのかという情報を整理しております。</li> <li>・常に放流量のデータとかの情報を流しておるわけですが、少し違う話題を載せたときに見てくださる方が増えるような傾向が見てとれましたので、今後も時々有用な情報をキャッチして流すことも必要なんだなというふうに感じております。</li> <li>・資料-5の説明は以上となっております。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の説明、ありがとうございました。いろんな取り組みを工夫して広げてもらっていますが、それは非常にありがたいことだと思っております。</li> <li>・委員の皆様から今の点について何かコメント、質問、意見等ございませんか。よろしいですか。また関係しそうなところがありましたら、これから活動報告もいただきますので、その中でご意見等を頂戴できればと思います。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (6)2021年度 琵琶湖河川 レンジャー年間 活動報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、レンジャーさんの年間活動報告に移らせていただきますので、事務局、準備をお願いできますか。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、お手元の資料-6となります。</li> <li>・この議事では、今年度の河川レンジャーさん3名の活動計画に基づいた年間活動実績について報告いただきまして、委員の皆様からご意見、ご助言をお願いしたいと思っております。</li> <li>・レンジャーさんから7分を目安に報告いただきまして、質疑応答の時間を8分ほど設けております。議事の進行の関係で、時間が参りましたら合図させていただきます。</li> <li>・では、根木山レンジャー、水上レンジャー、福西レンジャーという順番で進めていきたいと思っております。進行につきまして、中谷委員長、引き続いてお願いできますでしょうか。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、進行させていただきますので、レンジャーさん、よろしく願いいたします。</li> <li>・まずは根木山さんからお願いできますか。</li> </ul>

R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改めまして、琵琶湖河川レンジャーの根木山です。9年目の活動になっております。今年度も「野洲川の川守りをつなぐ」ということで、主に守山市中洲地区に入りまして活動をさせていただいております。</li> <li>・11月以降の活動ということで、簡単にトピック立ててご報告したいと思います。</li> <li>・11月は、中間報告会の後に、野洲小学校で野洲川の改修に関する学習の支援に行っていました。4クラスで、たくさんの人数の生徒さんを相手にするというので、水上レンジャー及び支援室にもご協力いただきました。5人のメンバーで行っていました。</li> <li>・事前に建設省が制作された記録映画を見ていただいて、それに関する話し合い活動ということで、5人のメンバーと子供たちが輪になって話し合うという活動をしてきました。記録映画に関してはちょっと難しかったという感想もいただいたんですけども、じかに10人ぐらいのグループで私たちと話し合いを重ねることで身近に野洲川のことを感じていただけたのかなというふうに感じております。</li> <li>・続いては、今年の夏から取り組んできました、守山北高校の生徒さんによる課題研究のご報告をさせていただきます。</li> <li>・こちらは、3年生の1クラスのうち、8人の生徒さんが2班に分かれて野洲川の防災や水害をテーマにした課題研究をされるということで伴走支援をさせていただきました。</li> <li>・事前に授業の見学をさせていただいたり、授業にお伺いして話題提供をさせていただいたりしながら、12月には、1つの班は県庁にヒアリングに行っていたり、辻委員にもご協力いただいて、ヒアリングが実現しました。12月8日は琵琶湖河川事務所にヒアリングに行っていたり、こちらでも琵琶湖河川事務所の管理課のほうにお世話になって、ヒアリングが実現しました。生徒たちは、ヒアリングの結果を得て、自分たちで調べたことも含めて成果発表を1月にされました。</li> <li>・今年は初年度ということでどのぐらい生徒さんが深掘りできるのかなというのを様子見しながら伴走していたんですけども、比較的意欲的に取り組んでいただいて、ヒアリングなんかでも物怖じせずに県庁や琵琶湖河川事務所の職員さんにいろんなことを聞いていました。</li> <li>・成果としては、今年度の取り組みを踏まえて、今年度は3年生1クラスだけだったんですけども、来年度は1年生4クラス全部を地域に出したいというふうなことを校長先生と担当の先生からおっしゃっていただいておりますので、ぜひ来年度は実際に野洲川での活動に高校生に参加してもらえるように支援していきたいというふうに考えております。</li> <li>・それから、住民グループによる幼木伐採ということで、11月の河川清掃活動に併せての実施と、1・2・3月と、月1回ずつ活動をさせていた</li> </ul>
------	---

		<p>だいております。幼木なので根本から枝分かれしていて、細い木で、子供でものこぎりで簡単に切れるというよさがあるって楽しい活動なんですけれども、結構手間がかかって、手間がかかる割に真ん中に写っている写真ぐらいの量しか取れないと。以前は太い木をチェーンソーで切ってたので割と効率よく燃料が取れたんですけれども、最近は少しずつ取りためていくというような活動になっております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あと、琵琶湖河川レンジャーののぼりも立てさせていただいて活動を実施しております。</li> <li>・あとは総括的な話になるんですけれども、河川レンジャー勉強会でも私の要望を聞いていただいて他府県の先進事例の勉強会をしていただいたり、また河川事務所との意見交換会でも主にあめんぼうの活用に向けての意見交換をしていただいて、すごく議論が進んできたな、煮詰まってきたなということを感じています。</li> <li>・それで、野洲川の利用が少ない状況の中でも、住民グループの活動支援を通して、水辺での子供たちの活動というのが非常に価値のある活動なんだということを手応えとして感じています。具体的には、昨年7月にやった川遊びオープンデイに100名近い、たくさんのご家族が参加されたり、それをきっかけに住民グループの代表者の方が「ここで何かできるのかもしれない」というような手応えを感じておられるようで、OGである娘さんが河川レンジャー勉強会のEボートの操船講習に参加してくださったり、2月にあった河川レンジャー勉強会にその代表者の方が自ら参加してくださったりと、すごく主体的な活動が増えてきたなということで手応えを感じています。</li> <li>・一方で、琵琶湖河川事務所、守山市との意見交換でわかってきたことは、もともとのかわまちづくりの計画に準じて考える必要があるよということをお教えをさせていただいて、その時点の考え方としては、福井県の事例のような収益事業を前提とした活動までは多分前提にされてなかったんだろうということが共有されました。ただ一方で、野洲川冒険大会では模擬店を実施された実績がありますので、そういうものをひもときながら、住民が望む活動を実現できるように行政とも丁寧に話をして進めていく必要があるんじゃないかなということをおもっております。</li> <li>・とりあえず私の活動報告は以上になります。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根木山さん、ありがとうございます。</li> <li>・では、今報告いただきました件について委員の皆様から質問、ご意見を伺います。どなたからでも結構です。どうぞご発言ください。・・・いかがでしょうか。はい、平山委員、どうぞ。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご報告ありがとうございます。</li> <li>・2点ありまして、一番最後におっしゃっていた地域の収益につながる活</li> </ul>

		動、取り組みというのは、地元の方がどれぐらいの重みで求めているんでしょうか。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・地域活性化に資するためにかわまちづくりの取り組みがスタートしていると思うんですけども、地元にしてみると、リーダーの方々、例えば自治会長さんであるとか、あるいは自治会長さんとすごく親しくされている、地域活動を熱心にされている方とかと話をすると、地域活性化という言葉の中には、地元の雇用につなげるとか若い世代が働く場所が欲しいとか、そういう思いがリーダーの中にあるということを感じてます。</li> <li>・ただ、それがどの程度大きな数の声なのかというところはまだ十分に把握できてない状況です。</li> </ul>
平山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりました。ありがとうございます。</li> <li>・私の個人的な感覚なのでコメントとして受け取っていただければと思うんですけども、「事業化とか収益を目指すイベント」と「気軽にいつでも来て遊べるイベント」というのはもしかしたら方向性が違ってくるかもしれないなと思ひまして。そうすると、対象者とか関わってくださる方が変わってしまうかもしれないという不安があります。今まで来てくださった方が「そんなんやったらいいわ」というふうになるとすごくもったいないなと思ったので、根木山さんがコーディネートされているのでそういうことにはならないとは思いますが、少し気になりました。</li> <li>・もう一個お伺いしたいんですけども、野洲川は複数の市に接していると思いますが、守山市以外の関係者とか参加者の広がりほどの程度ありますか。</li> </ul>
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインでやっている活動は中洲地区にかなりフォーカスを絞っているものであれなんですけれども、今年度は、たまたまですけど、野洲市立の三上小学校や野洲小学校での学習支援もさせていただいて、そういった方々は中洲での活動を人から紹介されてとか中洲での活動をSNSで見てという感じで広がっているんで、そういった形で広がりがあるという感じですかね。</li> </ul>
平山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりました。もう少し上流のほうに目を向けたり、守山市さん以外の行政の方とのつながりも増えると、上下流のつながりが見えていいかなというふうに感じました。</li> <li>・以上です。ありがとうございます。</li> </ul>
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・あと補足をしておくと、北井さんが紹介してくださったのかもしれないんですけど、滋賀県の土木事務所の紹介で湖南市のロータリークラブさんから連絡をいただいて、これは河川レンジャー活動とは別に取り組</li> </ul>

		<p>んでいるんですけれども、河川レンジャーの活動を聞いて連絡をいただくようなことは起こってます。ただ、石部より上流側の活動なので河川レンジャー活動には入れてないんです。</p>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりました。ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・ほかにいかがでしょうか。はい、北井委員、どうぞ。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご発表、ありがとうございます。伺っていて、環境学習の提供というのが今年度はすごく充実されていて、今までの活動からのご縁がつながっているのかなと思いました。</li> <li>・多分、学校のご要望というのはいろいろだと思います。先ほども5人の体制をつくって行きましたというご報告があったんですけども、規模が増えてきたり、問い合わせが重なってくるようなことがあって年間の活動の中で比重が大きくなった場合、どういうふうに取り組みされるのかなというのがちょっと気になりました。根木山レンジャー1人では、1人でというか、年間の活動とか機会の中で関わり切れない部分も出てくるのかなと思いながら聞いていたんですけども、具体的に守山北高校さんは次年度クラス数が増えるということがありました。何か考えておられるようなことはありますか。対策的なことなり、あればと思いましたが、いかがでしょうか。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・今年度も実際5・6・7月ぐらいは支援室にかなり手厚くご支援いただいて、それでできた部分が結構あったなというふうに感じてます。</li> <li>・守山北高校さんについては、まだ具体的話までは行ってないのでどのぐらいの規模になるかはわからないんですけども、例えば1クラス30人を野洲川に入れるとなれば結構大変な作業にはなると思うので、その辺は支援室のご協力をいただいてやる形になるのかなというふうに考えています。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談しながらという感じになるのかなと思います。川に接する機会をいろんな世代に提供する機会自体がないので貴重なのですが、いろんな関係機関と協議しながら体制をつくっていただいて来年度も引き続きお願いします。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・今年度も想定外であった新守山川での活動も傍聴されている武田さんとかにご支援いただいたんですが、河川レンジャーが全てするというのは難しいので、いろんな関係機関と連携しながらやっていくという体制をつくっていくことが多分大事なんだろうなと感じております。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。ほかにいかがですか。はい、</li> </ul>

		<p>辻委員、どうぞ。</p>
	辻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根木山レンジャー、報告ありがとうございました。</li> <li>・私のほうからは、お礼と1点確認です。</li> <li>・まずお礼です。滋賀県のほうにも学生さんを率いてヒアリングに来てくださいます、ありがとうございました。引き続き、県、また土木事務所の方にもつなぎのところで活躍いただけることを期待しております。</li> <li>・それから、1点確認です。報告の最後のところで、主体的な活動について手応えがあるというようなコメントをいただいております。その具体的な内容についてちょっと確認したいという趣旨です。</li> <li>・といいますのが、レポートを拝見すると、「何月に誰としゃべった」はきめ細かく書いてくださっているんですけども、一方で中身のところがちょっと見えへんなというのを感じまして発言しているものです。特に「実施目的」のところ野洲川の維持管理や環境保全に参加・協力する住民が増えるようにしていきたいというミッションを書いておりますけれども、そういう観点で、中身でどういう手応えがあったのか、またどういうところが阻まれているように感じているのか、さらには来年からどういうふうにしたらもっとこの辺がよくなると思われるのか、その辺をお尋ねいたします。</li> <li>・以上です。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・県庁のほうは、本当にまだ生徒が成果を出せる状況ではないので、もうちょっと辛抱強く付き合っただけたらと思います。よろしく願います。</li> <li>・それから、住民のほうなんですけれども、先ほど言ったように、ずっと伴走支援しているなかす野洲川たんけん隊という住民団体の、特に代表者の方が、幸津川にお住まいの方なんですけれども、川遊びに100人ぐらい参加者があったことで「この活動って、結構みんなに期待されている活動なんだ」ということを感じておられるように感じています。何か言葉でやりとりしているわけではないんですけども、そういうのを感じていて。それは、具体的に言うと、その娘さんが初期のリーダーで、今は高校生になっているんですけども、Eボートの講習のレンジャー勉強会に参加して下さったり、代表者の方ご本人が2月の勉強会に参加して下さったりというようなこともあります。</li> <li>・あと、水辺での活動自体に、なかす野洲川たんけん隊に参加されている親子の方々が「野洲川たんけん隊の活動は子供たちが参加したいと言っている」というようなことをLINE等のやりとりで教えてくださるようになってきていて、子供たちが川での活動をすごく望んでいるということをお母さんもお感じおられるので、幼木伐採活動なんかも割と積極</li> </ul>

		<p>的に家族連れで参加して下さっているような状況があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それに併せて、中洲こども園さんや中洲小学校さんでの学習も、自分で言うのもあれですけど、割と質のいい活動を提供できるようになってきているので幼稚園の先生たちもすごく喜んでくれていますし、まず第一に子供たちがすごく喜んでいて変化するので、子供たちがこれを望んでいるということを身近にいる大人たちが感じて前向きになっているという手応えを感じております。</li> </ul>
	辻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・子供たちの参加が大人にも響いて、それで大人から子供までの参加が見込まれる、そういったところの手応えがあったという理解でよろしいでしょうか。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。</li> </ul>
	辻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とすれば、引き続き子どものきっかけで大人までが関わっていただけるような活動のサポートを今後もお願いしたいと思います。</li> <li>・以上でございます。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。</li> <li>・では、時間のこともあるので、続きまして、水上レンジャー、お願いできますか。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、年間活動報告について、最初のほうは何回も説明させていただいてますので、時間の関係上、簡単にご説明します。</li> <li>・行政と一緒に野洲川の河川清掃をやってきましたが、今年度は、あるべき姿と言うんですかね、最終段階の「住民主体の川づくり」を目指していろいろやってきました。それについてどういうふうに事前の調整をして実施したか、どういう課題があったかを今から説明させていただきます。</li> <li>・まず、全体のほうは飛ばして、8ページの活動計画です。</li> <li>・いろんなことをやろうということで事前に調整をしました。まず簡易炭づくりですが、春の河川清掃がコロナでできなかったものですから、本番でいきなりするのもあれでしたので、事前の準備として幼木伐採を使った炭づくりを何回か試行して、それで何とか成功したという形で本番に臨んでいます。</li> <li>・本番前の事前調整としましては、「住民主体の川づくりに向けて調整」ということで、まず綾羽株式会社と事前調整をしています。これにつきましては、基本的な考えとしては、それぞれがいろんなパーツをやります。例えば防災かまどの炊き出しは、中間のときにも報告しましたが、綾羽さんに材料も全部持ってきていただいて、避難所に炊き出しに行く体</li> </ul>

	<p>験、リアル体験という研修をやるという形で調整をしました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 2番目の立命館守山中学校は、先ほどの幼木伐採と簡易炭づくりを事前に何回かやりながら主体的に参加してもらうように調整をしました。</li><li>・ レイマックさんは、中洲親水公園を利用した、家庭用テントの組み立て体験を試行してもらうということで調整をしました。</li><li>・ あと、地域住民の方は、地域の方が植えられたシバザクラの保全活動を一緒にやりましょうということで参加の調整をしました。</li><li>・ 実際、令和3年11月20日にやりました。お手元のレンジャーレポートを見ていただきたいんですけども、北井さんに、集合写真のタイトルと言うんですか、何の活動かがわかるようにしたらどうかという助言をいただきましたので「令和3年度野洲川河川清掃」というのをつくって、のぼりも掲げて、こういう集合写真を撮りました。</li><li>・ それで、どういうことをやったかということ、下の「ひだまりの除草」というのはシバザクラの除草をしました。それから、真ん中が野洲川河川清掃。下は幼木伐採の試行ということで、実は真ん中の青い帽子をかぶっている人は守山の宮本市長なんですけど、市長にも参加していただいて大変なことをやっていただきました。裏を見ていただきまして、それ以外に「野洲川の生き物を知ろう」「防災かまどづくり体験」「簡易炭づくり」ということで、このように非常に盛りだくさんやりました。</li><li>・ 結果的にどうなったかということ、資料9ページの「活動結果と課題」、ここが一番大事なところで、来年度の計画にも反映しようと思っているんですけども、実施項目が非常に盛りだくさんだったので同時進行になってしまって、さすがに私一人の進行ではうまくいかなかったというのが現実です。</li><li>・ 特に、河川清掃やシバザクラなどのチーム分けは事前調整でうまくいったんですけども、それを実際やるときにリーダー的な存在がいなくて。それで作業内容やチーム内の作業分担や活動エリアが共有されてなかったということで、これは参加者の方からも感想をいただきました。</li><li>・ もう一つ大事なところで、地元の行事と重なって地元の人の参加者が物すごく少なかったと。これはちょっと大きな課題です。</li><li>・ なおかつ、「野洲川河川清掃の参加者の主な感想」ということで、時期をちゃんとやったらどうかということ。それから、2番目はさっきお話ししましたチーム分けですね。3番目も時期のことです。要するに、地元の方が参加してないですよ。4番目もそうです。これは大分皆さんから意見をいただきました。あと、簡易炭づくりのところはタイムスケジュールがうまくできななかったと。6番目は、野洲川は教育フィールドとしてはかなりいいので参加させていただきたいけども、交通手段の確保が課題ということで、こういったいろんなご意見をいただいています。</li></ul>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここで一番よかったのは、今までは、信頼関係はある程度できていたものの、「水上さんがやっているし、あんまり言うたら悪いかな」ということもあってなかなか意見をいただけなかったんですけど、今回は一歩進んで、より深い信頼関係ができたことで本音ベースの話をしていただいて、なおかつ前向きな話をしていただいたということで、個人的にはよい感想が聞けたんじゃないかと思っています。</li> <li>・これが住民主体に向けた一歩になるということで、ここは活動の評価もBにしています。あとはC評価、D評価にしています。</li> <li>・これを受けて、この後、計画をどういうふうに進めるか、この課題をどうクリアしていくかというのをまた説明させていただきたいと思います。</li> <li>・以上です。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水上さん、ありがとうございました。</li> <li>・委員の皆様から、質問、ご意見等を伺います。どなたからでも結構です。どうぞ発言ください。いかがでしょうか。平山委員、どうぞ。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご報告ありがとうございました。</li> <li>・8ページの中ほどにあります(4)の「住民の声(想い)を聴き、届ける(地域連携)」という活動の右側に「アンケートを行いまとめた」と書いているんですけども、これは先ほどご紹介いただいたイベントに対する感想というアンケートですか。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これにつきましては、それ以外に、野洲川についてどうかとか、いろんな感想をとってます。その一覧表を委員の皆さんには報告書と一緒に送ってますけども、今回これにはつけてませんが、10何項目ほど皆さんから意見をいただいています。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すいません。私がちょっと見逃しているんだと思うんですけど、そのアンケートのまとめというのは全部の結果を紹介いただいていますか。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。特にこれを受けてどうしていくかという課題のところですので、ここには主なものしか書いてませんが。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、川に対する考え方や思いのところでは大事なものはどういうものがあつたのかですとか、それを踏まえて企画の内容が次年度どう変わるのかというご紹介をいただけるとよかったかなというふうに思います。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川に関することは、ここにも載せましたけども、教育フィールドとして野洲川はうまく使えるなということだけいただいて、あとは、はっきり言って、なかったです。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうすると、川に対する声というのはあまり集められていないということですか。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果的にはそうですね。それが少し課題かなとは思ってます。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一点。同じ8ページなんですけども、(2)と(3)の活動結果の最後が「炭作りができなかった」ですとか「テント組立体験の試行ができなかった」と書いていて、それがC、Dという評価にも関係しているのかなと読み取ったんですが、少し違和感があって、イベントで予定してたことができなかったことと河川レンジャーの活動としての課題、つなげたかつなげなかったですとか、声を聞けたかどうかということは少し違うかなというふうに私は思うんですけども、レンジャーの活動としてつなぎ方がどうだったか、つなげたかどうかというところではこのC、Dの評価でいいんですか。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうです。要するに、いろんなことをつなごうと思ってやったんですけども、そのつなぐというところがうまくできなかったから、結果的にテントの試行ができなかったと。炭づくりも、調整をしたけど、その調整がうまくできなかった結果がそれであったというふうに思ったので、そのように自己評価したわけです。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうであれば、どういうところに調整の課題があったのかをここに記載いただいたほうがわかりやすかったかなと思います。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりました。参考にさせていただいて、今後そういう形で報告したいと思います。ありがとうございます。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございました。</li> <li>・ほかにいかがでしょうか。はい、北井委員、どうぞ。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> <li>・コロナで春の活動が中止になった中で再調整して、秋の活動は充実してきたのかなと思いました。</li> <li>・地元の参加者の方が少なくて日程調整が課題だということを挙げていただけてますので地元とのやりとりというのがちょっとだけ垣間見えたんですけども、企業さんについては、いろんな準備、仕込みをされて、綾羽さんとレイマックさんのご反応はいかがだったかなと思ひまして。できたら参加主体の一つとして教えていただけたらと思ひました。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・綾羽さんは、研修も兼ねたものですから、よかったということで。余談ですけど、担当の方が退職されてほかのところに行かれたんです。ただ、来年も引き続きということでしっかり引き継ぎもしていただいたので、河川清掃活動なのか防災かまどなのか、どっちになるのかわからないけども、個人的にはいい評価をしていただいたかなと思ひてます。</li> <li>・レイマックさんのほうは来年もやります、ということで、早速ここが終わった後に何回か話もさせていただけてます。</li> <li>・ついでに、立命館守山中学校のほうも、この後に計画をお話しさせてもらいますが、今日の午前中に来年度の調整をしてきました。結果的には</li> </ul>

		良かったというところですけども、前向きな意見をいただいたということで私は評価をしています。
	北井	・そしたら、また引き続きやっていきましょうねという感じで終わっていただいている様子ですね。
	R水上	・そうです。
	北井	・はい、わかりました。ありがとうございます。 ・そういう意味では、レイマックさんは活動への参加が長くなってきましたね。
	R水上	・そうですね。
	北井	・わかりました。ありがとうございます。
	中谷	・はい、ありがとうございます。 ・ほかにいかがでしょうか。 ・時間の関係で一言ぐらいしか言えないんですが、企業さんの関わりがあるんですけど、企業さんの活動から見て、ボランティア、社会貢献、その辺の意識として「会社としてはこうなんだ」みたいなことはレイマックさんや綾羽さんは言うておられますかね。
	R水上	・そうですね。もともと社長さんが、地域との交流というか、連携ということで地域貢献を言うておられましたし、会社に行きましたら、川の清掃活動で事務所から表彰していただいたときの表彰状が部屋に飾ってました。だから、非常にそういう活動はよかったと思われてます。 ・来年度は会社としてSDGsの取り組みができたらいいなということでレイマックさんとも話をしています。
	中谷	・はい、ありがとうございます。 ・では、後にも時間がありますので、言い足りなかったことはまたそちらでご発言いただければと思います。 ・次は、福西レンジャーから報告をお願いします。
	R福西	・11月からレンジャー活動をさせていただいてます福西と申します。よろしくをお願いします。時間の都合上、計画と結果をお話しさせていただきましたと思います。 ・まず、1番として「瀬田川利用者の実態とニーズの把握」という計画を挙げさせていただきました。 ・清掃活動を行っている中で、地域住民の方から声をかけていただくことがとても多かったです。時間の都合上や感染予防の観点から、長時間の会話は少し行いづらかったというのが僕の感想です。 ・活動中に挨拶を行った地域住民の方々からかけていただいた感謝の言葉などを、このメモを常に活動中持ち歩いて、メモさせていただきました。「福西河川レンジャー活動報告別紙」に活動時のノート記録がありますので、また見ていただけたらなと思います。

- ・南郷公園で清掃活動をしているシルバー人材の方や滋賀パトロールランニングの方々の活動を知ることができました。
- ・瀬田川出張所や支援室との意見交換の場で、清掃活動のごみの処理場などについて情報を得ることができました。
- ・また、瀬田川利用の釣り人のライフジャケット着用率がとても低いことがわかりました。活動期間中、釣りのオフシーズンだったこともあり、釣り人は9人で、ライフジャケットは1人しか着用されていませんでした。思ったより低いなという感想が僕の中でありました。
- ・小学生の釣り人2名が瀬田川で楽しまれていて、そのときにライフジャケットをつけておられなかったのが、落水時の危険性やライフジャケットの必要性について説明することができました。
- ・この成果目標と結果については、C判定とさせていただきました。
- ・次に2番です。「景観保全やマナー面から見た課題の把握 活動の呼びかけと実施」を挙げさせていただきました。
- ・この活動結果としましては、清掃当日にSNSに活動内容を上げることができました。また、清掃した結果についてもその日の夜に報告することができました。ただ、個人アカウントをもっと認知してもらう必要があると自分の中で考えました。今フォロワーも30人ぐらいいかないので、もう少し認知していただけるよう、精力的に活動していこうと思います。
- ・生活ごみのポイ捨てが多いんですけども、瀬田川ぐるりさんぽ道にはごみがとても少なかったです。それはなぜかと申しますと、ウォーキングのときに一緒にごみ拾いをされている地域住民の方が結構多くて、驚いたのと同時に、さんぽ道にごみが少なかった理由も理解することができました。
- ・活動期間中は釣りのオフシーズンということもあって、路上駐車はほぼなかったです。僕が活動している中ではゼロでした。
- ・次、3番目ですね。「瀬田川の利用者の把握と、行政等との共有」ということで、瀬田川出張所のほうに活動内容の報告と挨拶に行くことができました。所長に大人数での清掃活動を実施する際に回収したごみの廃棄方法についてアドバイスをいただくことができました。
- ・利用者の把握、想いや課題の把握については今後も継続して行っていくことが必要であると感じました。
- ・3月中旬ごろに「地域住民や活動団体による清掃活動行事の企画・実行」というものも挙げていて、別紙の一番最後にある「瀬田川清掃の活動概要」というものをつくっていたんですけども、コロナが流行していたということもあって結局これを地域住民の方に呼びかけて実施することができなかったので、次年度の活動にまた入れていきたいと思っています。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初予定していなかったが実施できたこととしまして、休日や早朝には瀬田川周辺で活動している団体があることを知ることができました。</li> <li>・また、琵琶湖湖岸の湖岸緑地志那の渡り鳥観察小屋で「草津湖岸コハクチョウを愛する会」の吉岡美佐子理事長に河川レンジャーとして挨拶することができました。そのときに吉岡理事長より渡り鳥観察小屋内での活動説明を受けることができ、こういう活動もあるんだなという理解をまた深めることができました。</li> <li>・僕からの報告は以上となります。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福西さん、ありがとうございます。任命されて短い期間ではありますが、精力的に活動をしていただいています。それも県内ではなしに奈良からお越しいただいているということで、ありがとうございます。</li> <li>・委員の皆様、いかがでしょうか。ご質問、ご意見等伺います。どなたからでも結構ですので、どうぞご発言ください。皆さんない中で、私からちょっと。</li> <li>・アドバイスのことなんですけど、清掃活動を計画してということですが、秋に河川事務所さんが主催して呼びかけてやる大規模のものがあつたり、自治会が自分の守備範囲でやっているものもあるので、情報収集を先にして、例えば地元でやっているところに何かしら合流するとか、さっきあつた、ぐるり散歩道ではごみが少ないというのは、多分日課的に拾っている人は「これはやって当たり前」というふうになっていると思うので、そういう常に歩いてはる人に「どういう気持ちでやってはるんですか」みたいに呼びかけたり。ほかにも、年に何回か歩く人とか、いろいろあるので、言いましたように、何か計画される折には周りの情報も集めて企画されるとよろしいのではないかと今の報告から感じました。</li> <li>・委員の皆さん、いかがでしょうか。</li> </ul>
矢野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私のほうからはコメントですね。特に福西さんに限らず、根木山レンジャー、水上レンジャー、福西レンジャー、お三方とも新型コロナ感染症対策でいろいろ制約のある中で様々な活動をしていただきましたこと、誠に御礼申し上げます。</li> <li>・今のお話を聞いて、今年度はなかなか動きにくかったことも多くあったと思います。この後、次年度計画についてお話いただけると伺ってますけれども、これを踏まえて来年度に活かしていただければなと思います。</li> <li>・併せて、気になったことがありましたら、皆さん遠慮なく事務局もしくは支援室にお話しいただければと思います。我々のほうも今伺った話に関してできることを拡大できないか検討していきたいと思いますので、よろしくお願いします。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上、コメントでした。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢野委員、ありがとうございました。</li> <li>・ほかにいかがでしょうか。はい、北井委員、どうぞ。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立ててから間もない中でのご活動、ありがとうございました。</li> <li>・レポートを見ていると、結構夜間の活動も多くて、お仕事や奈良から来てくださっているという調整の結果かなと思うのですが、ご無理なかったですかというか、大丈夫ですか。安全面もですけども、支障なかったか、何とか来年度もいけそうだと思われたかなど、そのようなご感想を伺えたらと思います。</li> </ul>
R福西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の都合上、不定期な活動になったり、時間も夜間に活動することもあったんですけども、安全面としましては、懐中電灯のような、ペンライトのようなものを持って足元を照らして活動をさせていただきました。あと、帰宅途中の方なども多かったのもので、そこは状況を踏まえながら、忙しそう方にはもう挨拶だけで終わったりというふうな感じで活動させていただきました。自分自身としましては、短い間だったんですけども、楽しく安全に活動できたと思います。ありがとうございます。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お疲れさまでした。「この時間帯まで？」と思いながらレポートを拝見しておりました。別紙も拝見していると、毎回きっちり記録をとってくださっているようなので、また取り組みを続けていただけたらと思います。ありがとうございます。</li> </ul>
R福西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、平山委員、どうぞ。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご報告ありがとうございました。</li> <li>・活動の規模を確認させていただきたいんですけども、今年度全体で何名ぐらいの方にお会いして、その中で活動をされている方がどれぐらいいらっしゃるのかとか、どの程度知り合いになれたのかというようなところが全体が見えなかったのもので、その辺を教えてくださいませんか。</li> </ul>
R福西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名刺を最初に50枚配布されたんですけども、50枚分は地域住民の方や南郷公園でグラウンドゴルフをされている方に時間をいただいて渡すことができました。</li> <li>・それで、その知り合いというか、滋賀パトロールランニングの団体さんとは挨拶を交わしまして、こちらの活動内容を伝えたところ、向こうの方から、次回タイミングが合えばお互い活動していきましようというふうな約束をしていただくことができたので、今後何か一緒にコラボできればなどは思います。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それに関連してなんですけども、もし瀬田川に行く時間や曜日が固定されると、お会いする方が固まってくるかもしれないなと思ひまして。それはそれでいいことだと思いますので、すごく広げたい時期なのか、深</li> </ul>

		<p>めたい時期なのかというのをご自身の中で持っていらしたほうが、信頼関係というか、関係づくりはしやすいかなと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一点、確認というか、質問なんですけど、13ページの下の方、1の項目の左の四角の中の下から5行目に今年度の成果目標として「信頼関係を構築する」とあるんですけども、短い時間でどこまでできるかというところがちょっと見えにくいなと思ひまして、これを書かれたときはどの程度の信頼関係をイメージされていたか、教えていただけますか。</li> </ul>
	R福西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問ありがとうございます。</li> <li>・僕の中で信頼関係が構築できたなという評価ができるとするならば、2回目にお会いしたときに僕からではなく相手のほうから「いつもありがとうね」とか、名前を覚えていただくとか、そういうことを言っただけなら信頼関係は築けたんじゃないかなという判断をしようかなとは思ってたんですけども、実際同じタイミングで行っているわけでもないんで、そういう機会は少なかったんで、今後増やしていけたらなというの思ひます。</li> </ul>
	平井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・今日明日で急に信頼関係はできにくいと思ひます。対象の方にもよりますけれども、気軽に話をしてもらえ、話ができるというようなところはすごく感覚的なものなので、そういう人たちをどれぐらい増やせたかというのを1年後またお伺いできればと思ひました。</li> <li>・以上です。</li> </ul>
	R福西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・ほかにいかがでしょうか。時間のこともありますので、年間活動報告のところは一旦ここまでとさせていただきます。委員の皆さん、言い残したというようなことがありましたら、この後すぐに暫定の活動計画をお話しいただくことになってますので、その中でお願いしたいと思ひます。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 審議 (1)2022年度 琵琶湖河川 レンジャー年間 活動計画(案) 【暫定版】	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そしたら、事務局、その辺の都合で進行をしていただきたいのですが、時間を決めましょうか。といっても、あとあまり時間がないので、質疑応答を含めてお一方10分の予定でどうでしょうか。時間のコントロールをお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりました。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レンジャーさん、すいません。勝手に時間を決めちゃいましたけど、先ほど一通りのことはお話しさせていただいてますので、その辺をめどに暫定の</li> </ul>

		計画について続けてお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料－7でございます。本日は来年度4月・5月ぐらいの暫定計画ということで、本計画は6月ごろの委員会で決めたいと思っております。</li> <li>・では、説明はお一方5分程度でお願いしたいと思います。中谷委員長、お願いします。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、根木山さんから発表をお願いします。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の計画について、スライドのほうを中心にお話しさせていただきます。</li> <li>・来年度は、5つの目標を掲げております。</li> <li>・1つ目は、先ほどご報告したとおり、これまでの成果を踏まえて、野洲川を子供たちの自然体験活動の場として活用して、そのことによって子供たちの周りにはいる大人たちにも参加してもらおうという活動を進めていきたいと思っております。</li> <li>・2番目もそれに付随するんですけども、清掃活動や幼木伐採もこれまでのノウハウから――行政にとってみたら保全活動に住民が協力することなんですけども、住民にとっては子供たちの豊かな体験活動になりますので、そういった多面的な価値をつくっていった保全活動に参加する住民を増やしていくということを実現したいと思っております。</li> <li>・3番目は「住民の声の聴取」ということで、先ほど質問にもありましたけれども、特に来年度は住民の声をしっかり聞けたらいいなと思っております。特別にお伝えすると、今、中洲の学区長が替わるというふうに地元でささやかれております。そうすると、地元側のリーダーが替わると、地元の声も変わってくる可能性がありますので、その辺はしっかり新しい後任の方――本当に決まったのかどうかまだ確認がとれてないので、4月に入ってから確認をとりながら、住民の声をしっかり聞いていきたいなというふうに思っています。来年はここがすごく大事なところかなというふうに個人的には感じております。</li> <li>・あと、4番目の「かわまちづくりに向けた関係機関との連絡調整」も今年度の成果を踏まえた活動になります。先ほど平山委員からもご懸念をお伝えいただいたんですけども、この間、意見交換会で僕が例に出したのは、例えば川遊びに100人参加してて、その場所に地元の自治会がかき氷の出店を出すというのはどうかという話を守山市や琵琶湖河川事務所としたんですけども、それはバツなんじゃないかという話が守山市役所からありました。でも、そのレベルのことが何とかできないかなと考えています。商業活動といっても、いきなりすごい会社がやってくるのではなくて、子供たちの活動の場にかき氷の出店を地元の団体さんに出してもらおうとか、そういうことができれば、地元としても一歩成果と</li> </ul>

		<p>して手応えを感じてもらえるんじゃないかなと考えていて、それを実現するためにはどうしたらいいのかということを守山市や琵琶湖河川事務所とも調整していけたらいいなと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5番目のところは、今年度も、三上小学校や野洲小学校など、中洲地区以外にも活動が発生したり、あるいは新守山川の活動に協力したりみたいなことがあったんですけども、そういったことも少し考えていきたいなと思っています。その辺、委員の皆様からご意見をいただけたら今後の活動の参考にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。</li> <li>・ 以上になります。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根木山さん、ありがとうございました。</li> <li>・ 委員の皆様、いかがでしょうか。どうぞご発言ください。はい、平山委員、どうぞ。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1点コメントです。ちょっと思いつきのような感じで申し訳ないんですが、商業活動に関して思ったことがありまして、今までの活動の延長線上に商業化があるのか、もしくは全く別のところから「あっ、これはこういうふうになればお金になるぞ」みたいな人が来たときにそういうものをしてよいかどうかという2つの方向性があるかなと思ひまして、私は後者があってもいいんじゃないかと思っています。そうすれば、関わってくださる方に広がりを持つということと、川への関わり方や見方に新しいものが入ってくるという意味でよいのではないかなと思いますので、「そういうふうにご考慮される人、いませんか」みたいな感じで募集してみるのもいいかなと、そんなことを感じました。</li> <li>・ 以上です。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はい、ありがとうございました。</li> <li>・ ほかにいかがでしょうか。・・・ないようなので、私から少し。</li> <li>・ 中洲にしろ、野洲、守山、栗東にしろ、野洲川の沿川にある塊ですよ。そうすると、今も平山さんからあったんですけど、町なかでは大々的にミズベリングとか言って、それこそ「商業を目指してやるで」みたいな動きもあつたりするんですよ。お金を払ってやるのは駄目じゃないかみたいなことを守山市役所さんには言っておられるんですけど、何をもちってそう言っておられるのか。先ほどの田中さんの話にあるように、逆に考えると「そういうことをやって何が悪い」的なこともあるんじゃないかという気もするし、守山市長さんだったら「ええよ」と言うのではないかなというように気がしておりますけれども、その辺は遠慮なく仕掛けていって、要は楽しいこと、住民さんから「こんなことやってみたい」というようなことがあれば取り組んでいけばいいんじゃない</li> </ul>

	<p>かと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。それでは、よろしいようでしたら、後で意見交換の場もありますので、そこでまたご発言いただくこととして、根木山さんの暫定報告については以上までとさせていただきます。ありがとうございます。</li> <li>・では、続きまして、水上さん、お願いできますか。</li> </ul>
R 水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は何回も説明させていただいてますので、暫定計画書の4ページから説明させていただきます。</li> <li>・先ほどとダブりますので、主な意見は簡単に言います。要するに、一遍にたくさんやり過ぎて、参加者が分裂して作業してしまったために困ってましたよという意見。もう一つは、地元住民の参加が少なかつたんじゃないかと。だから、時期も含めて考える必要があると。あとは、伐木とか、そういうのは引き続きやったらいいんじゃないかと、そういう意見をいただいています。</li> <li>・それを受けて、来年度も継続して野洲川清掃活動をしますけれども、どういうふうにしていくかというのを具体的に書きましたので、下のほうを見ていただけたらと思います。</li> <li>・まず、今年はコロナでできなかつたんですけども、2回は必ずやりたいということで春と秋にやる予定です。なおかつ参加者はほぼ一緒の形で、もちろん地域住民を重点的に参加していただくようにします。</li> <li>・第1部としては、たくさんやり過ぎないように、清掃活動とシバザクラの除草をまずやると。実施範囲は一緒です。</li> <li>・第2部としまして、2つぐらいにしようかということで、川に親しむイベントと防災かまどによる非常炊き出し体験。バーベキューとか交流会ということを書いてましたので、これは必須項目で入れてます。秋には幼木伐採と簡易炭づくり、防災かまどというような形で、項目を一気にやるんじゃなくて絞ってやります。</li> <li>・「その他」のところに書いてますけども、「地域住民の参加者を増やす」ということで、来年度は、野洲川河川清掃の実施に当たっては綿密な調整をしたいと思ってます。今年度は、コロナの関係もあって、人をたくさん集めるのはどうかということでやっていませんでしたけれども、コロナの感染が収まらない中でどうやって地元住民の方を集めるかということも考えて、来年度はそちらのほうに力を入れて、地元住民に広く広報を行って参加者を増やすようにしていきたいと思ってます。</li> <li>・それで、皆さんの思いを聞きながらやるのは変わらないんですけども、もう一つ考えたのは、幼木伐採と簡易炭づくりを一度にやりましたが、時間が足りないと言われてましたので、事前に立命館守山中学校と琵琶湖河川事務所と一緒に、一日とは言いませんが、五、六時間ぐ</li> </ul>

	<p>らいかけてきっちりやってみたいなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほども言いましたが、午前中に立命館守山中学校へ行きまして、5月19日に幼木伐採と簡易炭づくりをやるというお話をしてきました。これは中体連の体育大会の日で、スポーツ系のクラブは外で活動して、科学クラブなどの文化系クラブは自宅待機です。自宅待機といっても自宅で実習みたいなことをするというので、その日を使ってやろうと。20日は予備日にして、このように具体的に人数なども話してきました。</li> <li>・それで、中洲でやろうと思ってたんですけど、河口部のヤナギの木が非常に繁茂していて、それもやったらどうかというご意見もいただいていますので、こういうのを聞きながらちょっと変えていって進めていきたいと考えてます。</li> <li>・ただ、課題として参加者の交通手段の確保の調整ということを言われてましたので、これはぜひ支援室なり河川事務所のほうでちょっと協力していただきたい。</li> <li>・今は暫定的ですけど、そういう形で計画を見直して、より住民主体になるような形で進めていきたいと思ってます。</li> <li>・簡単ですけど、以上です。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水上さん、ありがとうございます。</li> <li>・では、委員の皆様から、質問、ご意見等をお伺いします。いかがでしょうか。はい、平山委員、どうぞ。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1点確認させていただきたいんですけども、リーダー的な存在がいなくてうまくいかなかったとおっしゃったことに対して、どういうふうにリーダー的な方に現場に関わってもらおうのかという、そのステップをお伺いしてもよろしいですか。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そこが非常に難しいところで、今1つ考えているのは、実は、幼木伐採と簡易炭づくりを立命館守山中学校の方にやってもらったときに、いきなりみんなが集まったところで「リーダーシップをとってくれ」とやったんですが、結果的にうまくいかなかったと。それで今回は幼木伐採と簡易炭づくりを単独でやってみましょうということで、顧問の脇田先生と尾崎先生の2人にリーダーシップをとっていただいて、予行演習と言うと失礼ですが、スケジュールとか、いろんな仕切りをやらしてもらおうと思ってます。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生がリーダーであって、生徒はリーダーにはならないんですか。なってもいいかなと思ったんですが。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりますけども、実際去年もやったんですが、さすがにそこまではちょっと。最終的にはそこまで持っていくといいと思いますけども、まずは先生にやっていただいて、生徒も一緒にやるという形でやっていきたいと思います。焦ってやると、失敗というか、なかなかうまくいかない</li> </ul>

		<p>ということを去年体感しましたので。</p>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりました。</li> <li>・ちょっとコメントなんですけども、リーダーになる方と幼木伐採が上手な方というのはまた違うと思いますし、作業自体がうまくてもリーダーとして振る舞えるかというのはまた違うことだと思います。できれば水上さん自身が「あっ、この人、次にリーダーになってほしいな」みたいな方に目星をつけて、そういう方に手厚くステップアップ、ステップアップと言ったら失礼ですけども、リーダーとしての活動の仕方を伝授していかれるというのが現実的なのかなというふうに思いました。</li> <li>・以上です。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平山委員、ありがとうございました。</li> <li>・ほかにいかがでしょうか。</li> <li>・私、さっき根木山さんのところでも「野洲川筋には集落が点在してますよね」みたいなことを言いましたが、今お話があった交通手段とかに関わってくるんですけど、そこら辺はどうですかね。支援を得るといって、ただで済む場合もあるし、金がかかる場合もあるし、いろいろあるかと思うのですが、その辺は行政との結びつきで。まあ、人数的にどうかということはあるんですけども、多分守山市さんもバスを持っておられるんですよね。そういうところをうまく使えるようにするとか、あと、今はっきりとは思いつかんですけれども、要はそういう面ではやっぱり河川事務所さん、地元自治体さんのつながりが大事だと思ってて。今、よく治水面で協議会をつくったりという結びつきもありますが、それは治水、防災だけでなしに、そういうつながりを地域の人にどう広げていくかという観点に立てばいろんなことが関係してくると思うので、その辺はじっくりとパイプを太くしていくといえますか、そういうところにつながっていけばいいのかなというふうに思って聞いておりました。もちろん、国あり、県あり、市町ありというところなんでね。</li> <li>・はい、矢野委員、どうぞ。</li> </ul>
	矢野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のお話を受けましてというわけではないんですけども、私も周辺の市長さんとお会いする機会がありますので、そのときに今日伺ったレンジャーさんの活動というものをちょっと話題にさせていただいて、私も今年1年間通じて皆さんが活動されている内容を把握できましたので、委員長がおっしゃられたように、パイプを太くしてそういったものを共有していきたい。</li> <li>・その上で、その先に今お話があったような協力も可能になるかもしれませんので、我々のほうもこういった活動を共有することでこの場でうまくいったことを報告できるようにしたいと思います。よろしくお願いし</li> </ul>

		ます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢野委員、ありがとうございました。今、心強いお話をいただきました。そういうトップダウン的なことも大事なんですけれども、「現場でこういうことを抱えてますよ」ということもそれぞれの組織で共有といたしますか、組織的には上に上がるというか、そういうことが必要なと思いますので、それぞれの立場で頑張りましょうということですね。はい、ありがとうございました。</li> <li>・ほかにいかがでしょうか。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実は、今年、行政との調整が非常に大変でした。今日は心強い意見をいただきましたので、ぜひ住民主体に持っていくための行政の協力もお願いしたいと思います。この場を借りて、どうぞよろしくお願いします。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また後のパートでもどういう苦労があったかを伝えてもらったら、解決策がうまく見つかっていくのではないかという気もしますね。</li> </ul>
	矢野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もうちょっとフランクな話ができるかもしれませんね。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・では、水上さんの年間活動の暫定版についてはここまでとさせていただいて、次、福西さん、お願いできますか。</li> </ul>
	R福西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろしくお願いします。</li> <li>・計画としましては、11月から活動させていただいて、まだ途中段階といえますか、春から秋にかけてはまだできていないというか、手探りのところがありますので、同じような内容になっています。</li> <li>・ただ、追加としまして、水辺のレジャーが始まる前の6月と12月、年に2回、応急手当普及員の上平孝洋氏による「応急手当と水難事故発見時の対応」、タイトルは仮なんですけれども、この講習会を地域住民の方を対象としてウォーターステーション琵琶館内で行う予定となっています。上平孝洋氏には事前に許可もいただいて、してくださるということで話は動いています。</li> <li>・あと、「地域住民や活動団体による清掃活動行事の企画・実行」というのが今年度はできなかったのですが、来年度は感染症が比較的落ち着いている7月中旬ごろを想定して行います。初回開催は10人程度を想定しているんですけども、コロナ感染症が落ち着いて、ちょっと世の中も変わったような感じがあるようでしたら、もう少し人数のほうも調整していきたいと思います。</li> <li>・あとは変更のほうはあまりありませんので、計画としては以上となります。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。先ほどからもありましたように、短い期間ではありますが、活動していただき、今後もそういう方向で進めていただくということですね。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたら、お伺いします。いかがでしょうか。はい、平山委員、どうぞ。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>1点コメントなんですけども、2の「景観保全やマナー面から見た課題の把握」のところで、私から見てすごく大事なと思うところは、イベントや活動を企画したり実施することではなくて、そのマナーの実態を把握することだったり、川に参加者がどれくらい親しんだのかという把握のほうがレンジャーの活動としては大事だと思うんです。なので、企画のほうが実質的には大変だと思うんですけども、成果報告としては大事なほうはどうだったのかというのをお聞きしたいので、そういうことを意識されながら活動していただけたらと思いました。</li> <li>以上です。</li> </ul>
	R福西	<ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい、平山委員、ありがとうございました。</li> <li>ほかにいかがでしょうか。はい、北井委員、どうぞ。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご計画、ありがとうございます。</li> <li>ちょっと気になってたのが、工程計画を見たときに結構「随時やります」という感じが見てはとれるんですが、レポートで毎月いただいている報告や中間報告では、日ごろから歩いて清掃活動を行ったり、マナー面での観察を把握する活動というのは「いつ、どういう活動を積み上げているか」をお伝えいただくことがポイントになってくると思うんですね。メモを手帳にとっていただいているみたいですけど、その積み上げがいかに行っているかとか、声かけも挨拶を交わしている程度なのか、どんな話を住民の方としたのか、その中にどういう背景があるのかというところを私たちにを見せていただけないとご活動の実態自体が見えてこないと思うので、都度都度の報告というのを意識して日ごろの活動をつくっていただけたらいいかなというふうに思います。「中間報告のときにはこういう形の報告にしよう」とか「レポートを出すときには印象に残ったコメントを箇条書きで書き出しておこう」とか、ちょっとイメージを持ちながら日ごろの活動の蓄積をつくってもらえたらと思います。コメントです。</li> </ul>
	R福西	<ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>北井委員、ありがとうございました。</li> <li>ほかにいかがでしょうか。</li> <li>今のお話に関連するようなことではあるんですが、住民さんと挨拶を交わす、一言二言交わす、そういう中で「住民さんが瀬田川や琵琶湖で課題に思っているところはどういう方面だろうな」とか、根掘り葉掘り聞かなくてもいいので「ごみが気になりますよね。いつも拾っておられるんですか」的のところからつかむという感覚もあっていいだろうなと思</li> </ul>

		<p>います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あともう一つ、小学生にライフジャケットをつけなさいよという話を言ったときに「おっちゃんは何者なん?」「おっちゃんは何してんの?」というようなことはなかったですか。</li> </ul>
	R福西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういうことは言われなかったんですけども、ちょうどウォーターステーションの対岸のところ釣りをされてた方々なので、「あそこの建物でボランティアをさせてもらっている者なんですけども」というような、かみ砕いたような言い方で関わらせていただきました。ライフジャケットも釣り具の一つなので、もしよかったらご両親に買ってもらえたらなというふうなことは伝えさせていただきました。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の話ですけど、RAC（NPO法人川に学ぶ体験活動協議会）とかが小さい冊子「安全のためにはこういうものですよ」みたいなのをつくってあれば、それを渡しちゃうとかいうようなこともありかなと思って聞いてたんですが、むしろ小学生から、「河川レンジャーって何?」とか「ヒーロー物ではないの?」とか、突っ込みがあったほうが話がつながって面白かったのではないかと。まあ、これからいろんな人と出会って交流が広がるといいなと思っております。</li> <li>・ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。</li> <li>・レンジャーさんお三方から暫定版として報告をいただきましたが、委員会自体は年度が替わって少したってからの開催ということになります。堅く言うと、そこで活動の承認ということになるんですけども、今、報告、そして暫定版の活動計画を出していただきましたので、こういう方向で進めていただくということについては異論のないところかとは思いますが。委員の皆様からのいろんなご意見等を参考に、また次の運営委員会での活動計画の発表にうまく反映していただければなというふうに思います。</li> <li>・事務局、活動計画の暫定版は委員会としてお話を伺ったということでもよろしいですね。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。レンジャーさんの活動の暫定版については認めていただいたということで、次年度1回目の会議まではこの計画で進めていただこうかと思えます。ありがとうございました。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございました。お疲れさまでした。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. その他 (1)2022年度 の年間スケジ	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、「その他」の項目で、次年度の年間スケジュールの案について事務局からお願いできますか。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の資料－8となります。来年度の年間スケジュールの案でございま</li> </ul>

<p>ルール(案)</p>		<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、今年度と同じようなタイミングでの計画となっています。</li> <li>・制度運営委員会につきましては、6月ごろを第1回の目標にしています。できるだけ早め、5月下旬から6月中旬までぐらいを開催の目標に、年度明けから調整をさせていただこうと思います。中間的には10月ごろ、それから年度最後は2月下旬ごろを目標に考えております。</li> <li>・あと、レンジャーミーティングを委員会に合わせるような形で3回ほど入れておりますが、これもまた適宜必要なときに増やしなごらと考てております。</li> <li>・おおよそはこのようなスケジュール感となっております。以上でございます。</li> </ul>
	<p>中谷</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございました。年間活動計画は、今ほどご説明いただいたとおりです。</li> <li>・当然ここに肉づけされることとは思いますので、私から1つリクエストがございます。というのは、レンジャーさんとの意見交換会はもちろんですけれども、市役所さんも入られる機会があつたりするので、例えば、先ほどから出てますように、できるだけ幅広い観点から、市のどこかの部署に来ていただくときには、どういう立場でどういう権限を持ったパートが来ていただくのかとか、ある目的を持ったらそれに見合うところに来ていただくということが必要かなというふうにも思います。釈迦に説法的な話ではあるんですけど、その辺は支援室なり事務所さんのほうでもよく考えて取り組みを進めていただければと思います。</li> <li>・委員の皆様から、今の年間事業スケジュールについて何かございますか。まあ、大きくは次の1回目の運営委員会が開かれてというようなことになろうかと思ひます。</li> <li>・では、一応こつうスケジュールでもって進めていただくと。コロナも収まってくればいいんですけど、そういうこともありますので、うまく考て進めていただければと思います。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
<p>5. その他 (2) 河川レンジャーレポートvol. 45発行について</p>	<p>中谷</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、次にレンジャーレポートの発行についてということでお願いできますか。</li> </ul>
	<p>△中西</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その他」の2番目ですけれども、先ほど水上レンジャーの活動報告の中でも触れていただきました。主には瀬田川河川清掃と瀬田川の川歩きの話載せておひまして、12月に発行したものでございます。皆様のお手元にも送らせていただいたものです。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、今年度最後、3月末までにもう一号発行できればということで今詰めておりますけども、できるだけ早めに仕上げとお届けしたいと思っております。</li> <li>・簡単ですが、以上でございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・こういう宣伝のツールも非常に大事なことだと思いますので、またうまくアレンジしていただいて。</li> <li>・これは大体どのあたりまで出回ってますかね。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川事務所では、出張所、それから、淀川や猪名川、木津川上流など、河川レンジャーがいる事務所に送らせていただいております。また、県ですとか、あとウォーターステーションのネットワークのある団体様に直接送らせていただいております。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・しつこいようですが、何遍も守山市さんのことを言いますが、さきの会合に参加された守山市の職員さんは多分レンジャーがどのようなやということを市役所の中でも一番知ることになっている部署かなというふうに思いますので、そういうところからうまく広がるように。</li> <li>・あと、地元はどうですか。中洲学区とかは行ってますか。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すみません。公民館のほうには送らせてもらいましたけども、学区までは送れていません。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこがどうやということはないんですけど、せっかくだから、できるだけ部数の許される限り。特に市町全体に広くまくことも大事なんですけども、要は直接レンジャーさんが関わっている地域とか、そういうところについては手厚く工夫していただけるといいかなと思いますので、よろしくをお願いします。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. その他 (3) 傍聴者からの意見	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、傍聴の方にご発言いただく時間とさせていただきますが、いかがでしょうか。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日、傍聴がお一方向おられました、途中で退席されましたので、ただいまは傍聴の方がいらっしやらない状況でございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、わかりました。</li> <li>・そうしましたら、65回の運営委員会はここまでとさせていただきます、一</li> </ul>

		且私の役目を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。
--	--	-----------------------------------

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. 閉会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、本日の65回を閉じさせていただきます。次回は、予定どおり、5月下旬から6月ということですのでよろしくお願いいたします。</li> <li>・この後、10分ほど休憩を挟みまして、レンジャー様、委員の皆様との意見交換会を開催いたします。16時10分に同じアドレスでまた再開したいと思います。</li> <li>・それでは、一旦これで閉めたいと思います。ありがとうございました。</li> </ul>

# 琵琶湖河川レンジャー レポート

**瀬田川を愛する人が安全・安楽に共存できる川づくり**



河川沿いの道路からのゴミのポイ捨て 瀬田川立木観音付近

みなさん、はじめまして。昨年11月より河川レンジャー活動を始めた福西健太です。私は、瀬田川で散歩や運動・釣りなどで利用する人々が、安全・安楽で、共に活動できる場所になる働きかけをしたいと思っています。安楽という言葉には、『気兼ねなく、ストレスフリーで楽しんでいただけたら』という思いを込めています。また、良好な河川景観を維持できるように、利用される方が思っている課題やニーズを引き出すとともに、共に考えていける場づくりをしたいと考えています。というのも、瀬田川を利用している人々にとって、一部の釣り人の行為が迷惑になっている事があります。琵琶湖漕艇場内での釣りは禁止されていますが、ルアーや釣り針、釣り糸が絡んでいます。路上駐車もあり、沿川で生活している方にとっては通行の妨げになっています。瀬田川には、豊かな自然と観光資源があり、地域の住民や観光客の憩いの場となっている環境を維持していく必要があると考えています。

河川レンジャー  
活動支援室  
2022年3月発行  
VOL. 46



活動中に集めたゴミ 瀬田川 南郷洗堰付近

「こんなことから始めます」

『利用者の実態とニーズの把握』

瀬田川を利用している人々に積極的に会話し存在を知ってもらい、信頼関係を構築するとともに、質問調査を行い、利用者の瀬田川への想いや課題を把握します。安全利用の観点から釣り人のライフジャケット着用を啓発していきます。

『景観保全やマナー面から見た課題の把握』

活動予定をSNS上に載せて呼びかけを行い、瀬田川を利用する人々と一緒に清掃活動を行うことを試行します。

漂流ゴミや生活ゴミ、レンジャーで出たゴミを収集し、課題を把握します。

利用する人々が気持ちよく過ごせる景観を保持する方法を参加者と一緒に考えます。

『活動内容はSNSにて発信します』  
Twitterのフォローを是非お願いします。

[https://twitter.com/ranger\\_fuku](https://twitter.com/ranger_fuku)

#琵琶湖河川レンジャー 福西



河川レンジャーの福西です。  
瀬田川を愛する1人として、  
地域住民の方々と共に良い  
河川の維持に努めます！

**幼木伐採を  
実施しました！**

野洲川では樹木の伐採が進みましたが、その後新たな木が生えてきています。川の中の樹木は水の流れを阻害し、氾濫の危険性を高めます。

そこで、野洲川下流部にて住民グループ「なかす野洲川たんけん隊」と一緒に幼木伐採作業を行いました。1月と2月の休日に2回実施し、19名の方が参加してくださいました。幼木は枝が細く、子どもでもノコギリでカンタンに伐れますが、他方で、根元から枝分かれしていて、枝落とし作業に手間がかかり、作業の割にあまり伐採量が多くなりません。

寒いなかの作業のため、以前、野洲川で伐採した樹木を乾燥させた燃料をつかって、時計型ストーブをつかって暖をとりました。河川での保全活動は、子どもたちの豊かな自然体験になります。ことを実感しています。



野洲川 幸津川地先での活動の様子



幼木を切る子ども達



集めた伐採した幼木



根木山レンジャー

活動拠点 (問い合わせ先)

水のみぐみ館 ウォーターステーション琵琶内 河川レンジャー活動支援室  
〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-2-2 TEL077-536-3520 FAX077-536-3530  
E-mail: r-manager@water-station.jp URL: <http://www.water-station.jp/ranger>

フェイスブックで活動を広報しています！

琵琶湖河川レンジャーFacebookページ  
<https://www.facebook.com/BiwakoRanger/>

# 水辺の安全講座

(開催報告)



水辺での活動は楽しいことがいっぱいありますが、川や湖では、深みにはまって溺れたり、増水中の川で流されたり、事故やケガのケースも耳にします。これから温暖な季節となれば、水辺活動が増えてきています。活動が少ない冬のうちに水辺活動時の安全対策や危険回避のノウハウを学んでおこう、ということと、水辺活動に興味のある方を対象にした『水辺の安全講座』をウオーターセッション琵琶にて開催しました。

内容は、「川に学ぶ体験活動協議会」認定の水辺のリスクマネジメント講座を行い、川ならではのリスクとその回避方法、事故事例から原因と対処すべきことを参加者が自ら考え、意見を述べ合うことをしました。さらに、併せて体験型の水教育プログラムの「プロジェクトWET」を活用して、「地球の水循環の模擬体験」や、「野洲川の流域図を作る」などを行い、体を動かして、楽しみながら学ぶという方法に触れて頂きました。

【参加者からの感想】  
 ▼ 危険箇所、事故対応では、具体的に分かりやすく良かった。  
 ▼ 水の流れ(地球における循環)を楽しく学べた。  
 ▼ 野洲川の流域の形をあらためて見て発見があった。



川の危険回避のノウハウを学ぶ



体験型の水環境学習の実践

「水辺の安全講座」 令和4年2月27日

# 野洲川を歩こう!

(開催報告)



野洲川についての「魅力」や「課題」を地域のみならず、知ってもらおうとともに、琵琶湖河川レンジャー制度なども知っていただく取り組みのひとつとして、河川レンジャー活動支援室が企画して『野洲川を歩こう!』を開催しました。主な内容として、河川レンジャーの活躍拠点、河川管理の重要ポイント、河川改修の歴史や自然再生が学べる場所を選び、①中洲親水公園、②服部水位観測所、③野洲川改修記念公園、④野洲川落差工などの約5km区間(下流2kmからおおよそ7kmの間)を訪ねて歩きました。改修の歴史を感じながら、野鳥の声や春の風を感じながらのんびり歩きました。今後も語り合いながら瀬田川や野洲川を歩く機会を作っていきたいです。

【参加者からの感想】  
 ▼ 川幅の大きさと河川スケールの大きさはびっくりした。  
 ▼ 新河川の大工事のスケールが体感できた。  
 ▼ シーズン中の魚道を見てみたい。  
 ▼ 野洲川改修記念公園は行ったことがあったのですが、河川敷を歩いたのも落差工を見たのも初めてでいい勉強になった。



野洲川中洲親水公園での説明



野洲川落差工での説明

「野洲川を歩こう!」 令和4年3月12日

# レンジャー勉強会開催

勉強中です



河川レンジャー活動支援室では、河川レンジャーの活動に沿って、情報や活動スキルの充実が図れるよう勉強会を定期的に開催しています。今年度は、野洲川の水面や河川敷の利用を軸とした地域との連携を模索されている現状を考慮して、7月には屋外を中心に、2月は屋内で開催しました。7月は、水辺を利用する方が、「安全に」、「楽しく」活動するためのノウハウを学ぶ、Eポートの指導者養成及び水辺レスキューの基本技術をマスターする水辺安全講習会を実施し、2月には、他県の河川利用の活性化の事例を学んだり、野洲川の中洲親水公園を題材として、地域の特性を活かした川づくりの極意を学ぶ勉強会を実施しました。



「野洲川における地域活性化に向けて」(講師: 田中謙次氏) 令和4年2月4日



「Eポート指導者および水辺安全講習会」(講師: 小野正雄氏)

令和3年7月26日



河川レンジャーに興味のある方は、QRコードからアクセスしてみてください

琵琶湖河川レンジャー&レンジャートライアル募集中

# 河川レンジャー活動の理念・あるべき姿

## ■河川レンジャー活動の「理念」

河川は、昔から住民の生活や生業と深い関係にあり、人々は日常的に川に触れ、遊び、恵みを得てきました。またその一方で、河川の氾濫等により、大きな被害を繰り返し受けてきた歴史もあります。

高度経済成長の大変動の中で、人々は、より便利で、安全で、効率の高い方法で、生活の向上、産業の発展を求めようになり、いつしか人々は、河川に背を向け、その整備や維持管理は専ら行政によるものとして認識されるようになりました。

しかし、河川整備計画に示されているように、本来、河川は貴重な自然環境や地域固有の風土・文化などを育む地域の財産であり、ともに守り育てていくことが求められます。

そのために今必要なこと、それは、住民自身が河川を守り育てていく「主人公」であるという意識を育み、河川の豊かさを実感しながら、新たな川づくりに主体的に携わっていくことです。そして、住民と住民がつながり、行政とも連携しながら、川づくり、湖づくりにともに取り組んでいくことが期待されます。

琵琶湖河川レンジャーは、こうした河川を取り巻く状況の中で、顕在化している課題だけでなく、将来を展望し、潜在している課題にも着目しながら、川づくりに対する住民の意識を喚起し、住民自身による活動を引き出し、住民と住民、住民と行政の協働の関係づくりをコーディネートする役割を担います。そのため、様々な立場の住民とのコミュニケーションや、住民活動への助言やサポート、住民と行政との協働による河川管理のあり方に関する提言などを積極的に行っていきます。

その結果、河川を愛し、守り、触れ親しむ人や、災害や事故などに対して自律的に対処できる人を増やし、かつてのような人々と河川との豊かな関係を再構築していきます。

## ■河川レンジャー活動に当たっての「姿勢」

○長期的な視野、幅広い視点、そして大きな志を持って活動に臨む

○固定観念にとらわれない柔軟な発想で活動テーマを定める

○定めたミッションの達成に向けて、住民と向き合い着実に進めていく

○主役はレンジャーではなく、住民自身であるという認識に立って取り組む

○独立性を保ち、自らの立場を明らかにして活動する

○継続性のある活動、受け継がれる活動に取り組む

○活動に必要な知識やスキルを日々向上させる努力を行う

## ■住民の真の知恵を聴取し、新たな川づくりに反映させるための活動プロセスとその「心得」

### 聴く・認識する

- ・多角的な意見、視点があることを理解・認識する
- ・住民との信頼関係を築き、本音を聴く
- ・普段川との接点がない人の声も聴く
- ・住民、行政それぞれの課題を認識する

### 呼びかける

- ・多世代が、川に触れ親しむきっかけをつくる
- ・子どもたちと川に関わる人々と出会いの場をつくる
- ・地域における住民の果たすべき役割を理解した上で、伝達や働きかけを行う

### 伝える

- ・河川レンジャーの役割・活動を分かりやすく発信する
- ・集めた情報は集めた場所にフィードバックする
- ・暮らしと川との関わりを“見える化”する
- ・地域の協働による活動の成果を地域内外に知らせる
- ・住民と行政の取り組みをそれぞれに分かりやすく伝える

### 引き出す

### 提案する

- ・住民自ら地域の声を聴き、問題を見つけ、地域の課題に取り組む意識を育てる
- ・住民による主体的な活動の立上げ、構築を支援する

- ・川づくりへの住民の参加・協働による取り組みを働きかける
- ・住民の思いや取り組みを背景に、行政に対して積極的に提案する

### つなぐ

- ・立場や思いの異なる住民どうしをつなぐ
- ・相反する意見をつきあわせる
- ・連携可能な活動や主体(官・民)をつなぐ
- ・派生するつながりも敏感に取り入れ活かす

## ■活動テーマ設定に際しての「視点事例」

○川から遠ざかっている子ども、住民に対する関心の喚起

○川の自然的価値、歴史・文化的価値の再発見

○住民の昔からの暮らしの中で培われてきた環境維持技術の掘り起こし(好循環型社会の再構築)

○外来種による生態系や文化・社会への影響

○水防災への関心の喚起

○顕在化している住民ニーズへの取り組み。  
【河川管理者に寄せられた住民ニーズ(別紙参照)】

○潜在化している住民ニーズを把握する取り組み。

# 河川レンジャー活動の理念・あるべき姿の位置づけ

「河川レンジャー」については、淀川水系河川整備計画で提起され、琵琶湖河川事務所管内では、平成18年度に「河川レンジャー制度」が制度化された。それ以降、当制度に基づく河川レンジャー活動が展開されてきたが、平成24年度に、今後の河川レンジャー制度及び委員会組織のあり方について、ワーキングによるレビューに基づき答申が行われた。ここに示す、「河川レンジャー活動の理念・あるべき姿」は、当答申に基づいて明文化するものである。

## ■淀川水系河川整備計画(平成21年3月策定)

河川レンジャーは、行政と住民との間に介在して、住民が河川に関心を持つような活動に取り組むとともに、個別事業の検討段階における住民意見の聴取や、住民の河川にかかわるニーズの収集を行う。当面は、河川にかかる環境学習等の文化活動や動植物の保護活動、河川利用者への安全指導等の活動を試行する。また河川レンジャー自らが住民と行政をつなぐテーマについて、試行も含めて活動の充実を図る。将来的には、地域住民と河川管理者とが連携しながら河川整備を進めていく上で、住民と河川管理者との橋渡し役となることも期待される。

## ■河川レンジャー制度(現状)

### ○河川レンジャー制度運営委員会規約

#### ・前文(抜粋)

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。

- ・名称、目的、委員の責務、審議事項、組織等、任期、委員長・副委員長、委員会、議事、委員会の公開、事務局、規約の改正、雑則

### ○琵琶湖河川レンジャー活動要領

- ・趣旨、定義、責務、活動拠点、任命及び解任、活動休止及び再開、任期、活動支援、活動計画、活動報告、研修、謝金等、保険の加入、活動要領の改正

## ■河川レンジャー制度運営委員会 委員会レビューワーキング

「今後の河川レンジャー制度及び委員会組織のあり方について(答申・抜粋)」

### (1)河川レンジャーのありべき姿

イ)河川レンジャー活動のありべき原点は、住民の河川との生活の関わりの中から醸成されてきた住民の真の知恵を聴取し、この住民意見を新たな川づくりの河川整備に反映されるように努め大きな志を抱くことにあるということを目指す。

ロ)「つなぐ」という言葉には、二つの本質的な意味がある。一つは、河川に関わる住民の真の意見を聴取するための、住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」である。河川レンジャーは、この「つなぐ」を達成するために、住民の意見を極めて公平に掘り下げて聴取できるよう、なんびとの利益行動にも左右されずに日常から思想と信条に関する倫理獲得に努め、住民個人あるいは住民組織と接していかなければならない。二つめは、河川レンジャーと河川管理者との間の「つなぐ」である。すなわち、河川レンジャーからの住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」結果の河川管理者への報告過程である。河川管理者は、河川整備を行うにあたって、住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」と河川レンジャーと河川管理者との間の「つなぐ」の二つの「つなぐ」を施策に十分に生かし反映させなければならない。

ハ) 河川レンジャー活動の理念、あるべき姿を明文化し、委員会委員ならびに河川レンジャーが活動目的の本質を認識して、これの共有を図る。

### (2)河川レンジャーの育成

- イ)開催講座の継続的開催
- ロ)相互理解を図るための交流の場

### (3)河川レンジャー活動成果の評価

- イ) 委員会が河川レンジャー制度の理念、目標を明確に提示できるという前提で、河川レンジャーの個別の活動について、その理念、目標の達成度を評価する。
- ロ)河川レンジャー活動総体としての全体評価

### (4)委員会の果たすべき役割

- イ)委員会委員の関与
- ロ)委員会及び委員の役割
- ハ)河川レンジャーと委員とのコミュニケーション

## ■河川レンジャー制度(今後)

### ○河川レンジャー制度運営委員会規約(前文(抜粋))

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。

### ○河川レンジャー活動の理念・あるべき姿

河川レンジャー活動の「理念」及び河川レンジャー活動に当たっての「姿勢」住民の真の知恵を聴取し、新たな川づくりに反映させるための活動プロセスとその「心得」活動テーマ設定の「視点事例」

※河川レンジャーの理念・あるべき姿の文章作成に基づいて、河川レンジャー制度運営委員会規約の改正が必要との判断はしない

※河川レンジャー活動の評価制度に関しては、河川レンジャー制度の理念・目標の明示がなされることによって、河川レンジャー個別活動評価について委員会にて検討する

※住民から寄せられたニーズに変化があった場合、河川管理者は、住民と行政との連携・協働がより積極的に取り組まれるよう制度運営委員会に報告し、制度運営委員会は、河川レンジャーの個別活動の評価、継続審査、任命審査に利活用するものとする。

## 河川レンジャー制度運営委員会規約

平成21年3月に策定された淀川水系河川整備計画では、河川レンジャーは「行政と住民との間に介在して、住民が河川に関心を持つような活動に取り組むとともに、個別事業の検討段階における住民意見の聴取や、住民の河川にかかわるニーズの収集を行う」としている。

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。河川レンジャー制度運営委員会（旧河川レンジャーアドバイザー委員会）は、琵琶湖河川レンジャーと連携し、琵琶湖河川事務所の積極的な支援に基づいてその制度を運営する。

（名称）

第1条 本委員会は「河川レンジャー制度運営委員会」（以下「委員会」という。）と称する。

（目的）

第2条 本委員会は、河川レンジャー制度の発展に寄与することを目的とし、その制度の運用の検討、琵琶湖河川レンジャー（以下「河川レンジャー」という。）の任用、河川レンジャーの活動等にかかる審査等を行う。

（委員の責務）

第3条 河川レンジャー制度運営委員会委員（以下「委員」という。）は、前条の目的に基づき河川レンジャー制度が適切に運用されるよう努めるものとする。

（審議事項）

第4条 委員会は、以下に掲げる項目に関して議決する。

- （1）河川レンジャーの任命及び解任
  - （2）河川レンジャー活動要領に関する事項
  - （3）その他委員会が必要と認めた事項
2. 委員会は、以下に掲げる項目に関して検討する。
- （1）河川レンジャー制度の運用に関する事項
  - （2）河川レンジャーの育成及び活動
  - （3）その他委員会が必要と認めた事項

(組織等)

第5条 委員会は10名以内の委員で構成する。

2. 委員会の構成委員については、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所長が次の各号に掲げる者から委嘱する。

- |                  |      |
|------------------|------|
| (1) 学識経験者        | 3名程度 |
| (2) 住民           | 5名程度 |
| (3) 行政関係者(河川管理者) | 2名程度 |

(任期)

第6条 委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。

2. 委員は正当な理由を有する時は、委員会の同意を得て辞任することができる。

(委員長及び副委員長)

第7条 委員会には委員長1名、副委員長1名を置くこととする。

2. 委員長及び副委員長は委員の互選によってこれを定める。
3. 委員長は会務を総括し、委員会を代表する。
4. 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故がある時又は委員長が欠けた時は、副委員長がその職務を代行する。

(委員会)

第8条 委員会は委員長が招集し、これを運営する。

2. 委員会は、委員総数の過半数の出席をもって成立する。
3. 委員会の議長は、委員長がつとめる。
4. 委員会は、必要に応じて委員以外の者から意見を聴くことができる。

(議事)

第9条 委員会の表決は出席委員の過半数をもって行う。なお、可否同数の場合は議長がこれを決定する。

2. 前項の場合においては、議長は委員として表決に加わることができない。

(委員会の公開)

第10条 委員会は公開を原則とし、その公開方法については委員会で定めるものとする。

(事務局)

第11条 委員会の事務局は水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶(滋賀県大津市黒津4-2-2)内に置く。

(規約の改正)

第12条 本規約の改正は、委員総数の過半数をもってこれを行うものとする。

(雑則)

第13条 本規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会に諮ってこれを定める。

附則

(施行期日)

この規約は、平成18年4月6日から施行する。

改正 平成20年1月18日

平成21年6月22日

平成22年1月20日

平成28年3月7日

## 琵琶湖河川レンジャー活動要領

### （趣旨）

第1条 この活動要領は、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所が管轄する区域及びその周辺において活動する琵琶湖河川レンジャー（以下「河川レンジャー」という）の役割と活動要領について定めるものである。

### （定義）

第2条 平成21年3月に策定された淀川水系河川整備計画では、河川レンジャーは「行政と住民との間に介在して、住民が河川に関心を持つような活動に取り組むとともに、個別事業の検討段階における住民意見の聴取や、住民の河川にかかわるニーズの収集を行う」としている。

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域及びその周辺で行うものとする。

### （責務）

第3条 河川レンジャーは、第2条に規定した活動を自発的に行う有識者であり、河川レンジャーの制度が適正に運用されるようにつとめるものとする。なお、河川レンジャーの活動は、個人や特定の団体の活動と区別されなければならない。

### （活動拠点）

第4条 河川レンジャーの活動拠点は、水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶（滋賀県大津市黒津4-2-2）とする。

### （任命及び解任）

第5条 河川レンジャーは、河川レンジャー制度運営委員会（以下「運営委員会」という。）の審査を経て、同委員会から任命されるものとする。

- 2 河川レンジャーがやむを得ない理由により、辞任を申し出た時は、運営委員会はこれを審議して解任することができる。
- 3 第10条に定める年度報告の審査の結果、活動内容の妥当性が認められなかった場合には、運営委員会は河川レンジャーを解任することができる。
- 4 次の各号に掲げる内容のいずれかに該当する時は、運営委員会はこれを審議して河川レンジャーを解任するものとする。
  - (1) 河川レンジャー制度の信頼を著しく失墜する行為をおこなったとき。
  - (2) 活動の意志がないと認められるとき。
  - (3) 公序良俗に反する行為があったとき。
  - (4) 心身故障のため、活動の執行に堪えないとき。
  - (5) 活動中において宗教活動、政治活動、営利活動を行ったとき。
  - (6) 法令に違反する行為があったとき。
  - (7) その他本活動要領に違反したとき。

(活動休止及び再開)

第6条 河川レンジャーがやむを得ない理由により、長期間にわたり活動を休止する場合、または活動を再開する場合は、運営委員会の承認を得るものとする。

(任期)

第7条 河川レンジャーの任期は、任命された日から当該翌年度の3月31日までとする。ただし、再任は妨げない。

(活動支援)

第8条 河川レンジャーの活動を支援するために、河川レンジャー活動支援室（以下「支援室」という。）をウォーターステーション琵琶内におく。

- 2 レンジャーの活動を適正かつ円滑にするために、支援室に河川レンジャーマネージャー（以下「マネージャー」という。）をおく。
- 3 運営委員会は、支援室職員の中からマネージャーを任命し、第5項の任務が適正に行われているかを審査する。
- 4 マネージャーの任期は、1年間とする。ただし、再任は妨げない。
- 5 マネージャーの任務は、運営委員会が下記に定める。
  - (1) 河川レンジャーミーティング（以下「ミーティング」という。）等の河川レンジャーが主体となる各種会議、活動行事等の日程調整
  - (2) ミーティングの司会・進行、議事録作成
  - (3) 河川レンジャーが運営委員会に提出する活動計画書や活動報告の作成、その他活動の実施にあたっての助言等
  - (4) 河川レンジャー活動成果のとりまとめとその広報
  - (5) 河川での様々な住民及び行政の活動に関する各種情報を河川レンジャーへ提供
  - (6) 運営委員会に対する河川レンジャーからの河川レンジャー活動に関する要望、および河川レンジャー制度に関する意見具申の内容整理と手続きを行う。
  - (7) 河川レンジャーの活動に対するマスメディア等からの取材受付
  - (8) その他レンジャー活動の支援に関する事項

第9条 河川レンジャーの活動を継続的に実施するため、河川レンジャーの中に河川レンジャーチーフを置くことができる。

- 2 河川レンジャーチーフは、河川レンジャーとしての経験等を考慮して運営委員会が任命する。
- 3 河川レンジャーチーフの任期は、任命された日から河川レンジャーの任期終了までとする。ただし、再任は妨げない。
- 4 河川レンジャーチーフに任務は、運営委員会が下記に定める。
  - (1) 琵琶湖河川レンジャーのまとめ役として各主体との連絡・調整
  - (2) 河川レンジャーの方向性の調整
  - (3) 退任する河川レンジャーの情報の引継ぎ
  - (4) その他河川レンジャーの活動に継続性を持たせるための活動

- 5 河川レンジャーチーフに任命された河川レンジャーの活動計画及び活動報告には前項の内容を含むものとする。

(活動計画)

第10条 河川レンジャーは、任命後速やかに任期内の活動計画を作成し、運営委員会の承認を得て活動を行うものとする。なお、活動計画を大きく変更するときは、速やかに計画変更書を運営委員会に提出し、同委員会の承認を得なければならない。

(活動報告)

第11条 河川レンジャーは、活動の内容、経過及び結果を運営委員会に報告し、承認を得るものとする。

- 2 河川レンジャーは、第1項の活動報告を原則として毎月提出するものとする。
- 3 河川レンジャーは、任期中の各年度末に、当該年度活動内容の報告を運営委員会に対して行い、活動内容の審査を受けるものとする。

(研修)

第12条 河川レンジャーは、運営委員会に対して、活動資質を高めるための研修講座の開講を要請することができるものとする。

(謝金等)

第13条 河川レンジャーへの謝金は月払いとし、適正な活動内容に対して支給するものとする。

- 2 河川レンジャーの活動及びその報告に要する経費は謝金の中に含まれるものとする。  
なお、活動報告に要する交通費は別途支給するものとする。
- 3 河川レンジャーの謝金額は別途定める。

(保険の加入)

第14条 運営委員会は、河川レンジャーが、活動計画に基づく活動を行うに当たっては、事前に、傷害保険等に加入する。

- 2 前項の保険への加入及び保険履行等の手続きは、レンジャー活動支援室がこれを行う。

(活動要領の改正)

第15条 本活動要領の改正は、運営委員会規約第4条第2項に基づいてこれを行うものとする。

附則

この活動要領は、平成22年4月1日から施行する。

改正 平成27年3月10日

## 河川レンジャートライアル 基本ルール

### （趣旨）

この基本ルールは、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所が設ける「河川レンジャー制度」において、河川レンジャーの確保を目的とし試行する「河川レンジャートライアル」に適用し、次期レンジャー候補者・希望者が体験する場として河川レンジャー活動の補佐をする場合の基本的なルールを示すものである。

### （名称）

この試行を「河川レンジャートライアル」と称し、トライアルを行う個人には、呼称を付さない。

### （責務）

トライアルにおいて活動する者は、特定の責務を負わないが、この試行の意義を理解の上、良識的な行動を行うものとする。

### （活動範囲）

トライアルにおいて活動する者の活動範囲は、琵琶湖河川レンジャーの活動範囲に準ずる。

### （登録）

河川レンジャー活動の補佐をする「河川レンジャートライアル」でレンジャー活動の体験を希望する者は、登録様式に記入し提出・申し込みを行う。

### （申込）

申込は、河川レンジャーマネージャーが対面で受け取り、河川レンジャーについての一通りの説明を行い、申込者が趣旨を理解していることを確認する。受け取った際の所見を、マネージャーは、様式内の所見欄に記入する。提出された申込書は、河川レンジャー制度運営委員会に回覧する。

### （活動内容）

マネージャー及び河川レンジャー（注1）により、トライアル内容を決定し、実施する。

### （活動支援）

河川レンジャー活動支援室（マネージャー）と河川レンジャーは、連携して、トライアルにおいて活動する者の、河川レンジャーとしての素養を獲得していく経過を支援する。

### （登録の抹消）

トライアルにおいて活動する者が、トライアルの趣旨に反して著しく不適切な行動を取った場合は、委員会が登録抹消権を持つ。

### （活動休止及び再開）

トライアルを行う期間において、都合により活動を休止する者は、マネージャーへ届けを提出する。また、再開する場合も、同様に行う。

### （登録期間）

登録期間は半年毎に更新可能とし、最長2年とする。

(活動報告)

トライアルにおいて活動する者は、毎回の参加記録を所定の様式に記入し提出すること、および3カ月毎に感想文を提出することとする。

(交通費の支払い)

上記の参加記録に記載される内訳に従い、確認の上、活動に伴う交通費の支払いを行う。  
精算の 様式は別途定める。

(保険の加入)

委員会は、トライアルにおいて活動する者へのイベント保険を各活動ごとにかかるものとする。  
その事務手続きは河川レンジャー活動支援室が行う。

以上